

「自己の在り方生き方」をテーマにした柔軟な教育課程
の先行事例として参考にしてください
静岡大学教育学部附属浜松小中学校の研究発表会（溝上講演録）

溝上 慎一 Shinichi Mizokami, Ph.D.

学校法人桐蔭学園 理事長
桐蔭横浜大学 教授

学校法人河合塾 教育研究開発本部 研究顧問
東京大学大学院教育学研究科 客員教授

<https://smizok.com/>
E-mail mizokami@toin.ac.jp

【プロフィール】1970年生まれ。大阪府立茨木高校卒業。神戸大学教育学部卒業、1996年京都大学助手、講師、准教授、2014年教授を経て2018年に桐蔭学園へ。桐蔭横浜大学学長（2020-2021年）。京都大学博士（教育学）。

*詳しくはスライド最後をご覧ください

※本動画チャンネルは溝上が個人的に作成・提供するものです。

※公益財団法人電通育英会の研究委託を受けて行われています。

※本動画では字幕を付けていませんので、必要な方は「設定」で「字幕オン」にしてご利用ください。

静岡大学教育学部附属浜松小中学校

「自己の在り方・生き方」を拓げ・深める子どもの育成<2年次>

一次案内

詳細は二次案内(最終)にて発表

教育研究発表会

令和7年10月16日(木)

17日(金)



<16日>

○公開・分科会開催教科

国語科 算数科・数学科
社会科 理科
外国語活動・外国語科

○公開・情報交換会開催教科

My Life 科(道徳)

○情報交換会開催

学校保健

教育対談

慶應義塾大学教職課程センター教授

藤本 和久 先生

中京大学国際学部教授

亘理 陽一 先生

<17日>

○公開・分科会開催教科

音楽科 技術・家庭科
図画工作科・美術科
体育科・保健体育科
My Life 科(道徳)

教育講演

学校法人桐蔭学園理事長 桐蔭横浜大学教授

溝上 慎一 先生

参加申し込み

受付中



授業のみ、対談・講演のみの参加も可能です。

多くの方々のご参加をお待ちしております！

問い合わせ

〒432-8012 静岡県浜松市中央区布橋三丁目2番1号

静岡大学教育学部附属浜松小学校

TEL (053) 455-1441

FAX (053) 457-3583

E-mail: ohamasyo@shizuoka.ac.jp

<https://fzk.ed.shizuoka.ac.jp/hamasho/>



〒432-8012 静岡県浜松市中央区布橋三丁目2番2号

静岡大学教育学部附属浜松中学校

TEL (053) 456-1331

FAX (053) 457-3587

E-mail: ohamachu@shizuoka.ac.jp

<https://fzk.ed.shizuoka.ac.jp/hamachu/>



10/16 (木) -10/17 (金)

静岡大学教育学部附属小中学校 第五回教育研究発表会

(講演) 10/17 (金) 14:10-15:40

「自己の在り方・生き方」を拓げ、深める
子どもの姿とは—これからの時代の教育を
見据えて—

No358

溝上が登場する講演等イベント のご案内(10-11月)

溝上 慎一

(桐蔭学園理事長・桐蔭横浜大学教授)

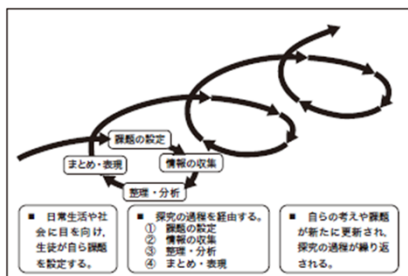
動画チャンネル「溝上慎一の教育論」

(Point1) 自己の在り方生き方を教育課程の推進テーマに

探究的な学び

学習指導要領(平成10-11年改訂)で登場

(1998-1999年)



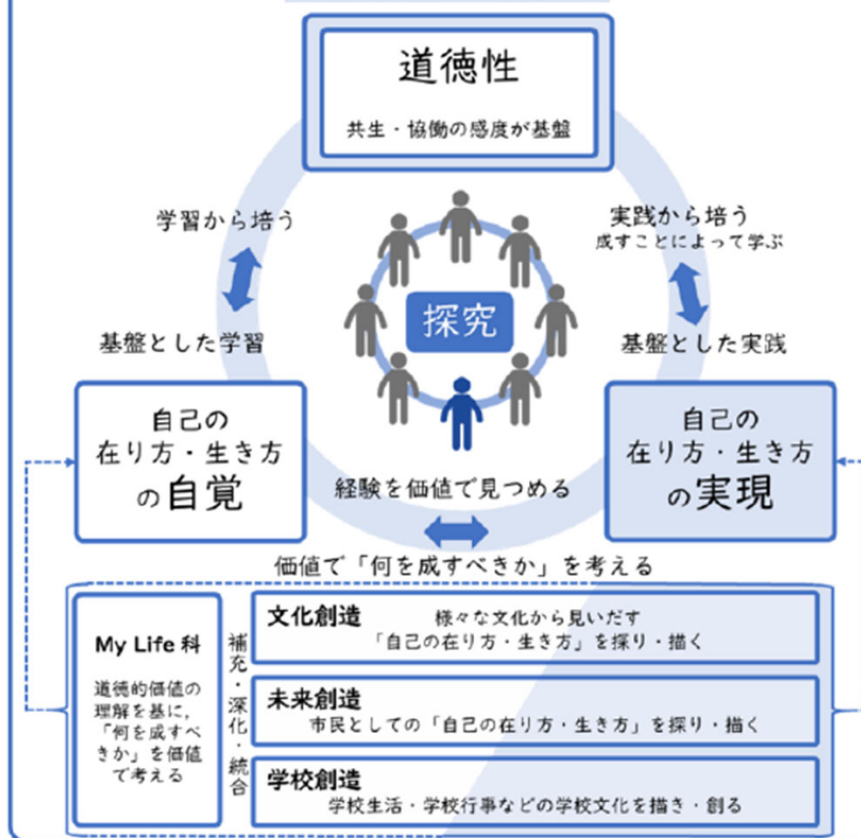
・探究のプロセス

- 課題の設定
- 情報の収集
- 整理・分析
- まとめ・表現

- + 総合(教科等横断)
 - ・言葉通り、各教科等をまたがった学習
 - ・各教科等にとらわれることなく実社会・実生活と関連付ける
 - という2つの意味がある
- + 自己の生き方(小中学校)
自己の在り方生き方(高校)
 - ・自らの課題を発見する
 - ・ライフ(生活・人生)
 - ・自己、価値観、アイデンティティ

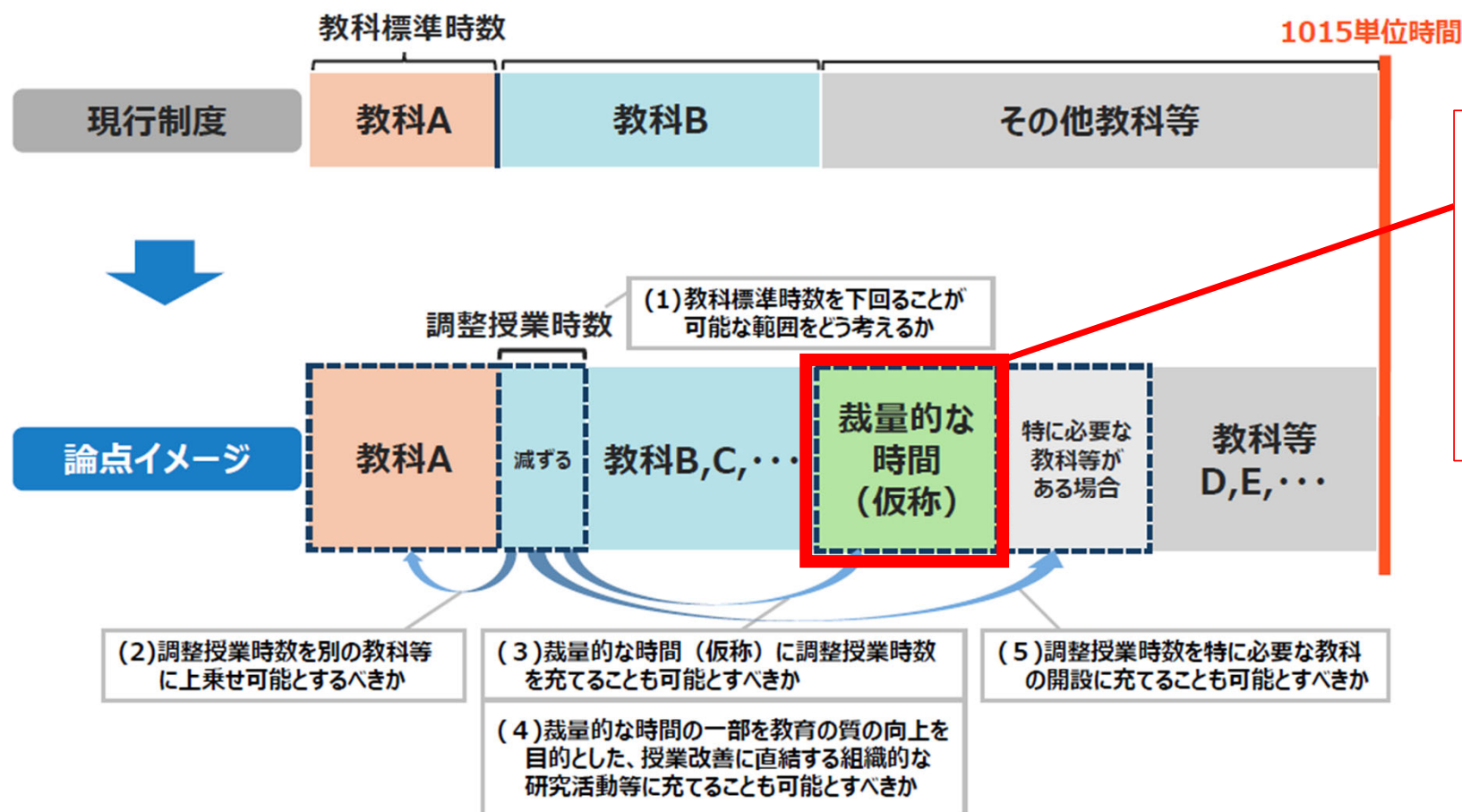


「自己の在り方・生き方」を拡げ・深める 道徳性の育成



柔軟な 教育課程（余白・裁量的な時間）

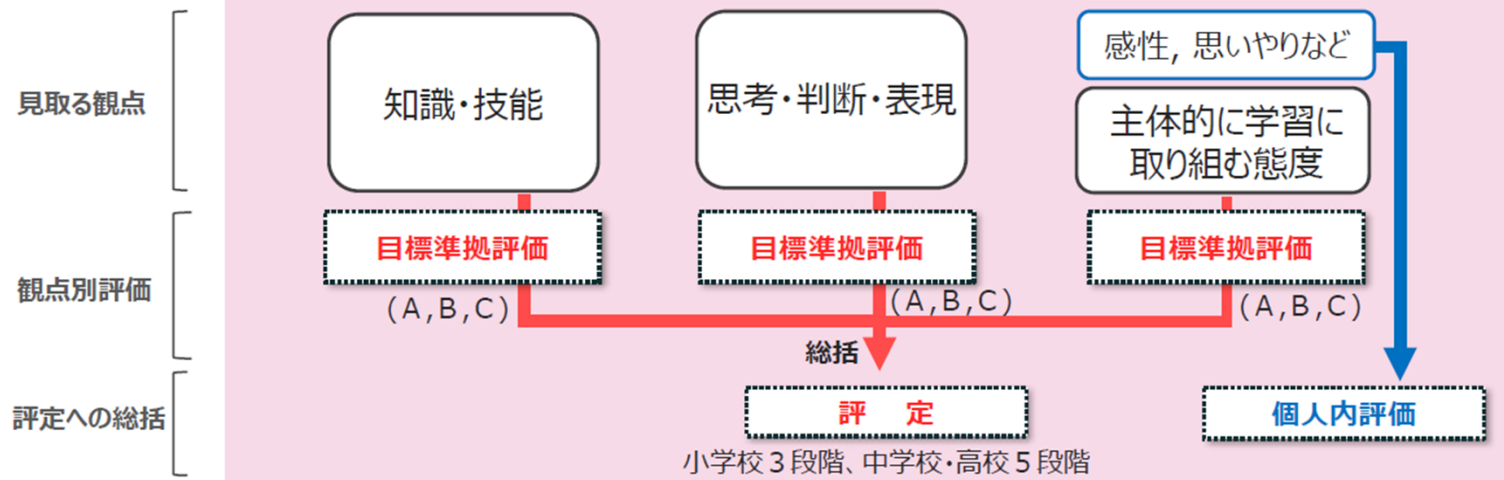
多様な個性や特性、背景を有する子供たちを包摂する柔軟な教育課程編成を促進するため、児童生徒や地域の実態を踏まえて、必要に応じて以下のような取組の一部又は全部の実施を可能とするか否か。



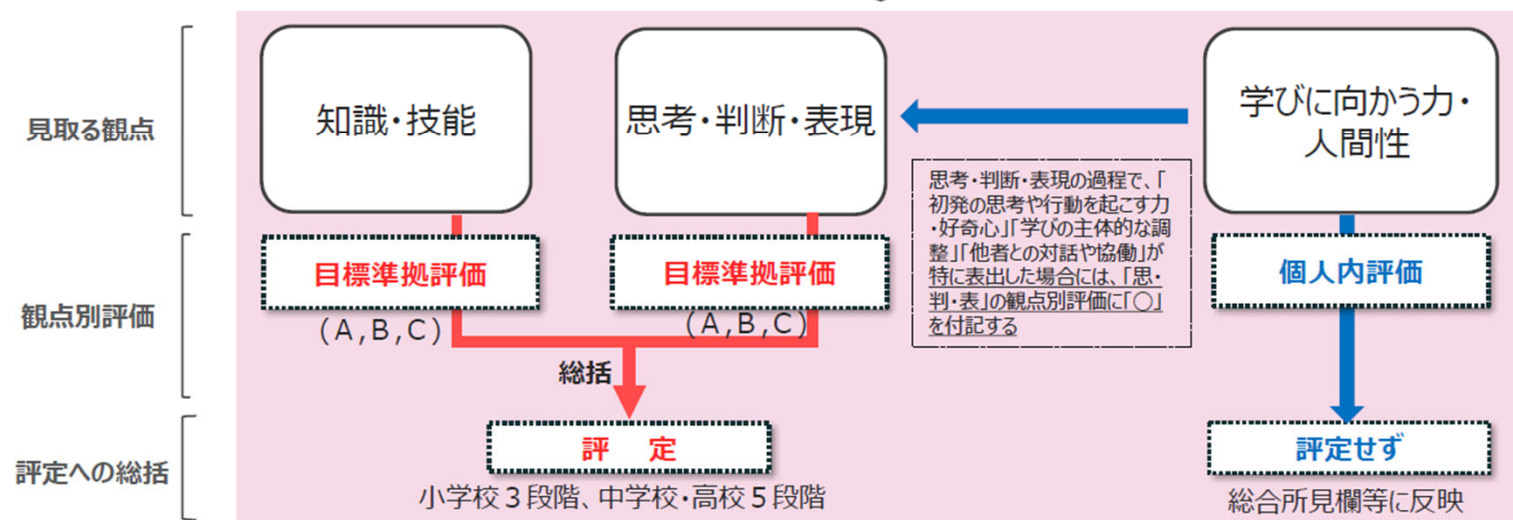
- ・子どもにとっての豊かな学びの時間
- ・教師にとっての教材研究、研修等の時間

新たな 観点別評価 の方向性

旧



新



学びに向かう力、人間性（主体性・対話等を構造的に改善）

【現行の整理】

小学校学習指導要領総則解説（抜粋）

児童が「どのように社会や世界と関わり、よりよい人生を送るか」に関わる「学びに向かう力、人間性等」は、他の二つの柱をどのような方向性で働かせていくかを決定付ける重要な要素である。

（中略）

児童一人一人がよりよい社会や幸福な人生を切り拓いていくためには、主体的に学習に取り組む態度も含めた学びに向かう力や、自己の感情や行動を統制する力、よりよい生活や人間関係を自主的に形成する態度等が必要となる。これらは、自分の思考や行動を主体的に学習に取り組む態度も含めた学び客観的に把握し認識する、いわゆる「メタ認知」に関わる力を含むものである。こうした力は、社会や生活の中で児童が様々な困難に直面する可能性を低くしたり、直面した困難への対処方法を見いだしたりできるようにすることにつながる重要な力である。

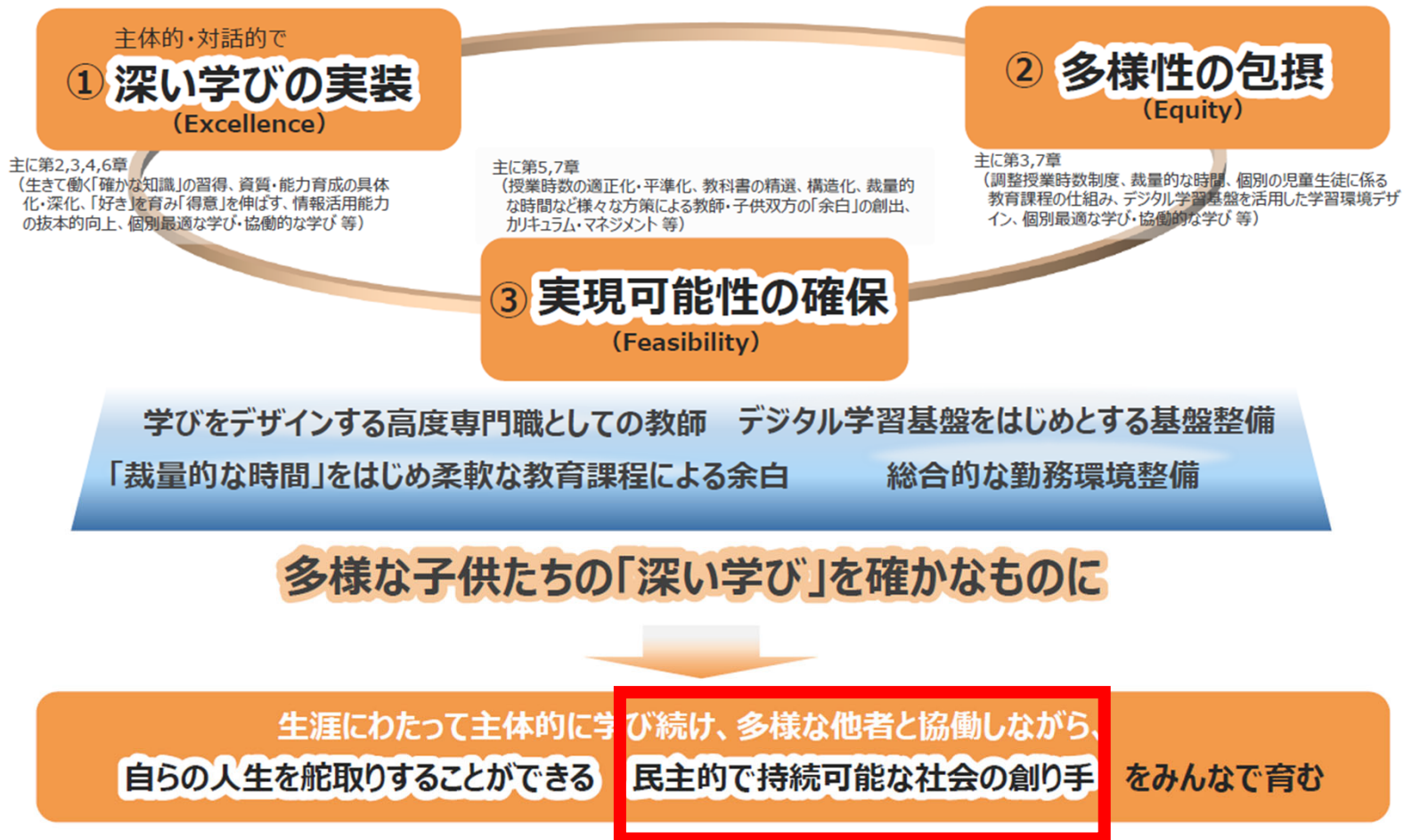
また、多様性を尊重する態度や互いのよさを生かして協働する力、持続可能な社会づくりに向けた態度、リーダーシップやチームワーク、感性、優しさや思いやりなどの人間性等に関するものも幅広く含まれる。

【今後の整理イメージ（素案）】

変化が激しい不確実な社会の中で、学びを通じて自分の人生を舵取りし、社会の中で多様な他者とともに生きる力を育む



民主的な社会の創り手



ほか「デジタル
技術の民主化」

ご視聴有難うございました
チャンネル登録もお願いします

質問、コメントは個人メールで受け付けます。

E-mail mizokami@toin.ac.jp

- お名前、ご所属

※可能なら専門分野や教科、職位なども教えてください、回答の助けになります。
なお、動画内では個人のお名前等は出しません。

- 質問、コメント等



静岡大学教育学部附属浜松小中学校第5回教育研究発表会 教育講演講師 2025年10月17日

「自己の在り方生き方」を広げ、深める子どもの姿とは —これからの時代の教育を見据えて—

溝上 慎一 Shinichi Mizokami, Ph.D.

学校法人桐蔭学園 理事長
桐蔭横浜大学 教授

学校法人河合塾 教育研究開発本部 研究顧問
東京大学大学院教育学研究科 客員教授

<https://smizok.com/>

E-mail mizokami@toin.ac.jp



【略歴】1970年生まれ。大阪府立茨木高校卒業。神戸大学教育学部卒業、1996年京都大学助手、講師、准教授、教授を経て、2018年に桐蔭学園へ。2019年同理事長、現在に至る。桐蔭横浜大学学長（2020-2021年）。京都大学博士（教育学）。

* 詳しくはスライドの最後にあるプロフィールをご覧ください

本日の内容

- ① 浜松小中学校の「自己の在り方生き方」の歩みと概念化
- ② 「自己の在り方」を「自己の生き方」に繋げるインサイドアウト思考
- ③ 2025年度の研究を見るポイント
- ④ 次期学習指導要領に向けた関連施策



本日の内容

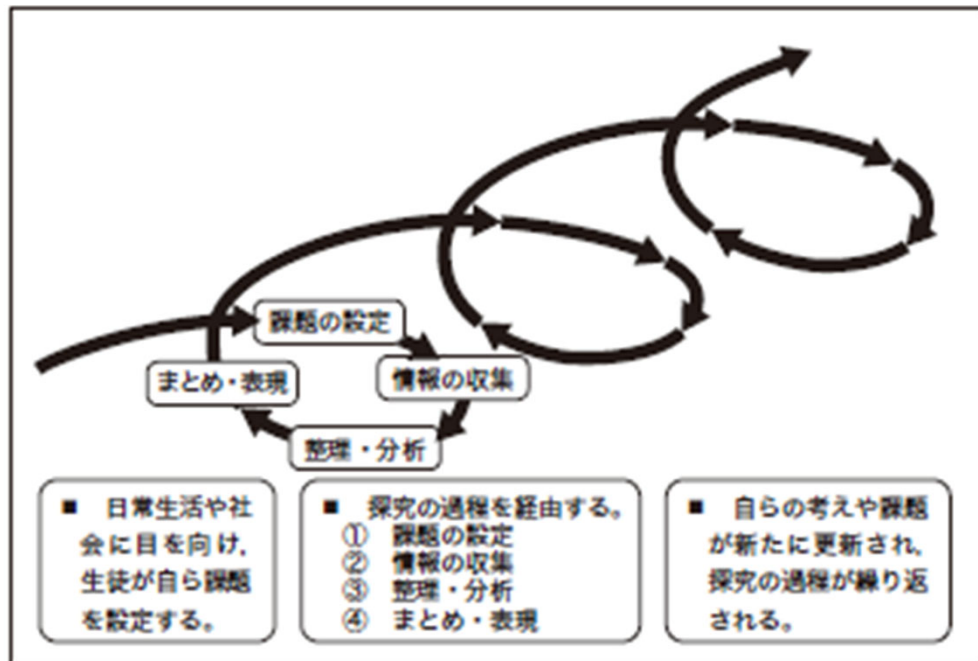
- ① 浜松小中学校の「自己の在り方生き方」の歩みと概念化
- ② 「自己の在り方」を「自己の生き方」に繋げるインサイドアウト思考
- ③ 2025年度の研究を見るポイント
- ④ 次期学習指導要領に向けた関連施策



探究的な学び

学習指導要領(平成10-11年改訂)で登場

(1998-1999年)



・探究のプロセス

- 課題の設定
- 情報の収集
- 整理・分析
- まとめ・表現

＋ 総合（教科等横断）

- ・言葉通り、各教科等をまたがった学習
 - ・各教科等にとらわれることなく実社会・実生活と関連付ける
- という2つの意味がある

＋ 自己の生き方（小中学校） 自己の在り方生き方（高校）

- ・自らの課題を発見する
- ・ライフ（生活・人生）
- ・自己、価値観、アイデンティティ

「自己の在り方」「自己の生き方」とはそれぞれどのようなことを指すでしょうか？具体的に考えてみてください。

静岡大学教育学部附属浜松小中学校 の研究活動出版物



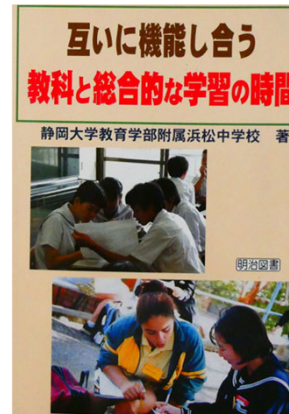
1992年



1994年



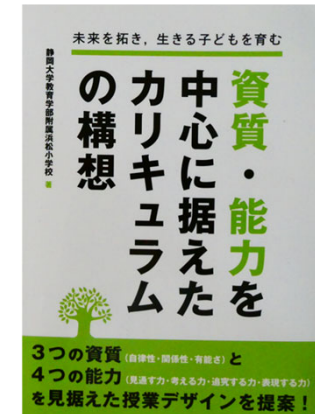
1999年



2001年



2011年



2016年

- ◆ 梶田 叡一・静岡大学教育学部附属浜松中学校 (1992). **自己の生き方**を探る授業の創造—価値観の形成とセミナー学習の提唱— 明治図書

>「**自己の在り方・生き方**を探る活動」(p.45)

- ◆ 静岡大学教育学部附属浜松小学校 (2011). 共に学びを創る—学びの質が授業を変える— 教育出版

>まえがき: 本研究のテーマは、子どもの「自己」と「学び」の関係を追究していることです。(p.6)

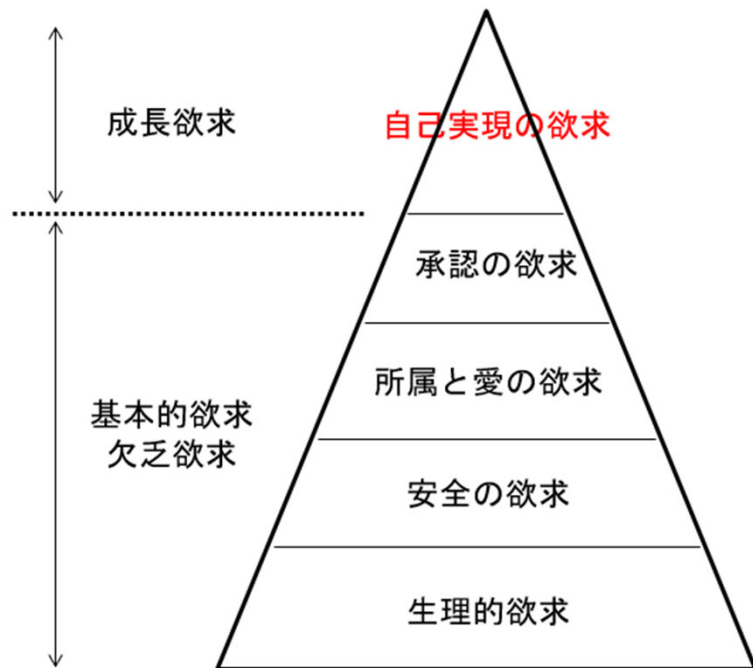
>第1章「「自己」を豊かにする」(とは)

自己実現をめざす生徒 を育てる(1992)

(定義) 自己実現... 自らの理想とする生き方を実現すること＝理想自己へ到達した状態

『自己の生き方を探る授業の創造』(1992年)

マズローの欲求階層・自己実現論



人生
↑
ライフの深まり
生活

自己の生き方
(≡自己実現)

自己の在り方



(文献) マズロー, A. H. (著) 小口忠彦 (訳) (1987). 人間性の心理学 [改訂新版] 産業能率大学出版部

自己実現しつつある人間像

すべての経験に開かれた心を持ち、価値実現に対して強力な欲求をもち続け、生涯にわたって心身共に傾倒して取り組むことができる人間

具体的な生徒像

他者との関わりで自己を振り返り、自己の可能性を信頼して自己を改善し、自己を表現し、自己の「価値観の形成」をめざす生徒

- ・将来の展望の上に、自己の内面世界に根ざした目標や課題を設定し、自らの方法で意欲的に課題を追究して解決し、評価できる。
- ・相互の内面世界を尊重し合う、豊かな人間関係を築いていくことができる。
- ・人間の素晴らしさに気づき、かけがえのない人生を、自己の責任において創造しようとする態度を持ちつづけることができる。

自己実現しつつある人間像

すべての経験に開かれた心を持ち、価値実現に対して強力な欲求をもち続け、生涯にわたって心身共に傾倒して取り組むことができる人間

具体的な生徒像

他者との関わりで自己を振り返り、自己の可能性を信頼して自己を改善し、自己を表現し、自己の「価値観の形成」をめざす生徒

- ・将来の展望の上に、自己の内面世界に根ざした目標や課題を設定し、自らの方法で意欲的に課題を追究して解決し、評価できる。
- ・相互の内面世界を尊重し合う、豊かな人間関係を築いていくことができる。
- ・人間の素晴らしさに気づき、かけがえのない人生を、自己の責任において創造しようとする態度を持ちつづけることができる。

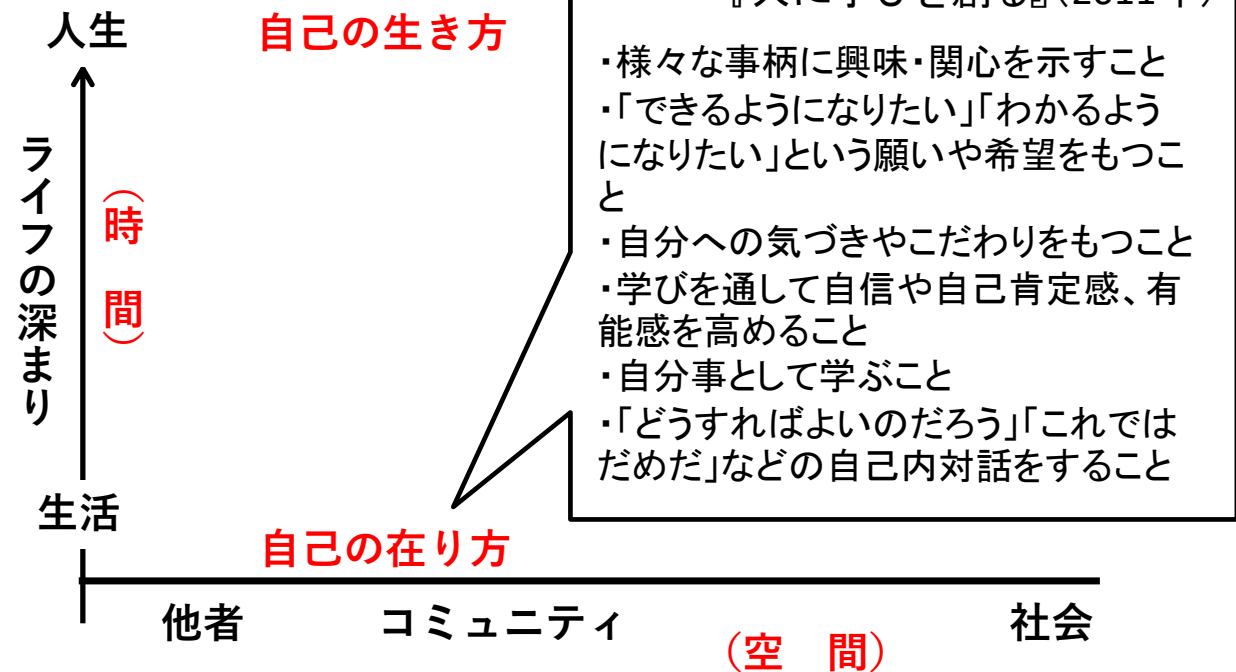
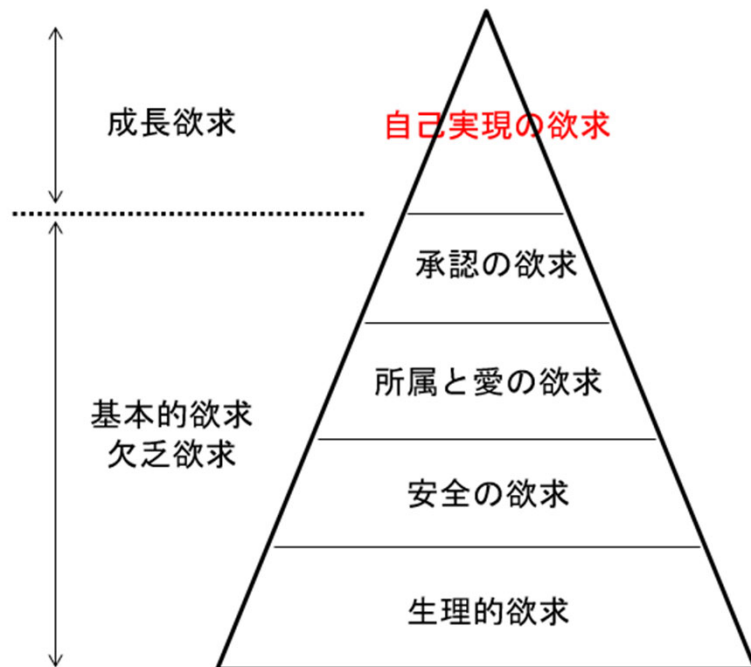
自己の在り方
自己の生き方

自己実現をめざす生徒 を育てる(1992)

(定義) 自己実現... 自らの理想とする生き方を実現すること＝理想自己へ到達した状態

『自己の生き方を探る授業の創造』(1992年)

マズローの欲求階層・自己実現論



(文献) マズロー, A. H. (著) 小口忠彦 (訳) (1987). 人間性の心理学 [改訂新版] 産業能率大学出版部

①セミナー学習

実践から見る「自己の在り方生き方」

自己の内面に育みつつある「価値観」から必然性をもって導きだした自分なりの追究課題を設定し、指導教官を決めて計画を立て、自分のよさを発揮して、追及活動を行っていく。それにより自分で蓄積してきた成果を発表し合い、互いのよさを認め合うことによって、自己の「価値観」をより確かなものにしていく学習(である)。

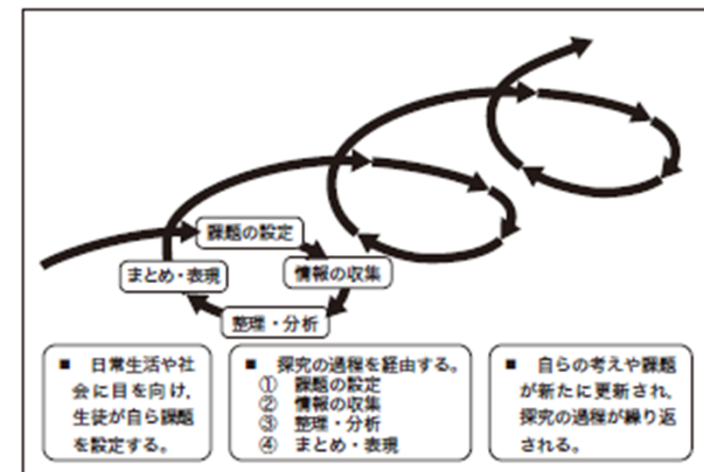
→探究的な学び

教科や学年の枠を越えたダイナミックな追及活動を(中略)「セミナーの学習」の時間を原則的に木曜日の第6校時に位置づけ、2年間で70時間ほどを確保(する)

→横断的・総合的な学習

→今日の「総合的な学習の時間」の先がけ

『自己の生き方を探る授業の創造』(1992年)



- a) 課題の設定
- b) 情報の収集
- c) 整理・分析
- d) まとめ・表現

セミナー学習の課題例

自己の在り方
自己の生き方

(3年生女子)

私は国語が好きだ。中でも小説に一番興味をもっている。また、私は将来、国語の教師か文学者になりたいと思っている。他には、日本史の流れに対する興味・関心も強い。そのため、明治以降の先人の考え方、生き方を知り、それに対する自分の意見や考えを明確にしたい。そして、これからの自分の価値観を形成する上での糧としたい。

(3年生男子)

身のまわりで起こる出来事、問題・・・佐鳴湖の汚染・・・の状況を調べ、その原因を考えたい。その結果、この問題はどうしたら自分たちで解決できるのか、謎をつかみたい。そして、そういうことを通して、社会のいろいろな問題にも考えをふくらませていきたい。

(2年生女子)

英語のことわざを一つ一つ丁寧に調べてみたい。そして興味あることざわについて深く掘りさげ、日本人とアメリカ人、イギリス人とのものの見方・考え方の違いを考えてみたい。

『自己の生き方を探る授業の創造』(1992年)

自己を豊かにする学びとは

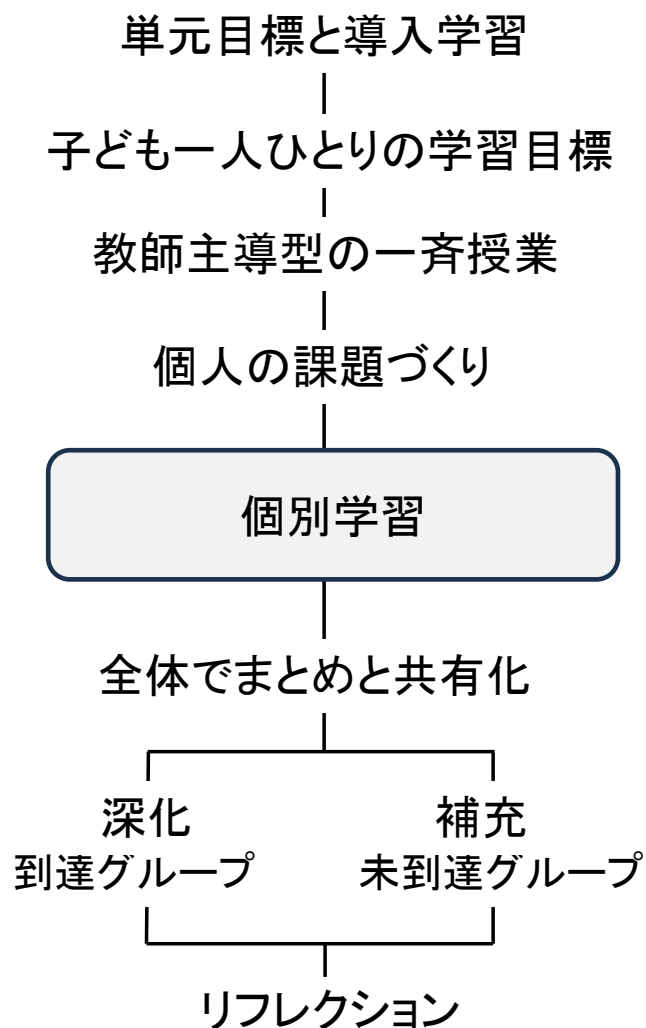
- ・様々な事柄に興味・関心を示すこと
- ・「できるようになりたい」「わかるようになりたい」という願いや希望をもつこと
- ・自分への気づきやこだわりをもつこと
- ・学びを通して自信や自己肯定感、有能感を高めること
- ・自分事として学ぶこと
- ・「どうすればよいのだろう」「これではだめだ」などの自己内対話をする

②各教科の取り組み

実践から見る「自己の在り方生き方」

『自己の生き方を探る授業の創造』(1992年)

各教科の「子どもが創る授業」モデル

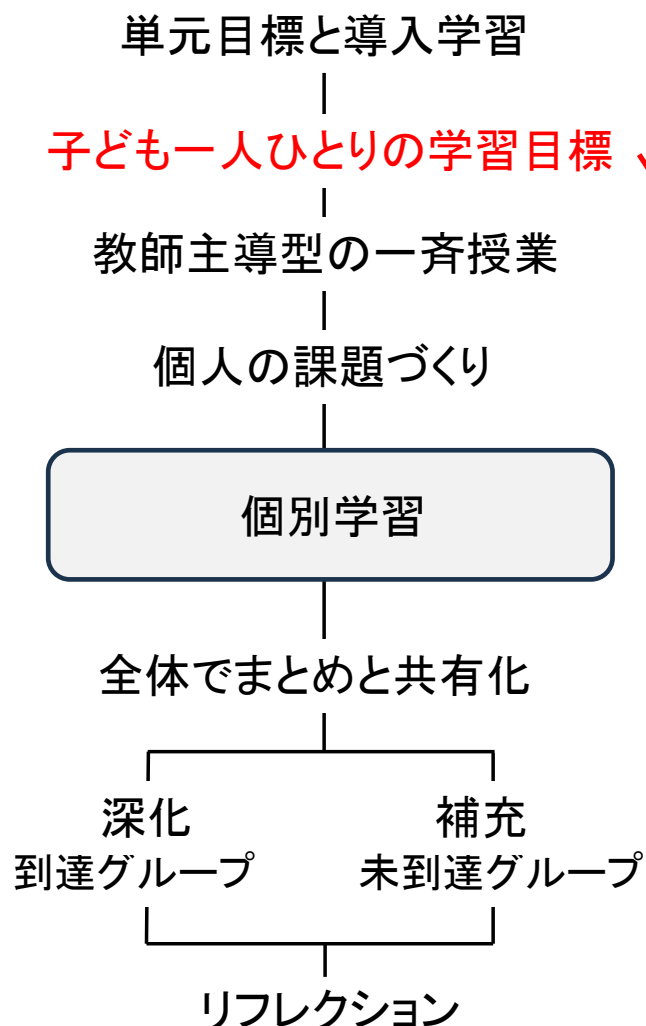


※p.36、65-66より作成。ただし説明用語を変えています

<国語科> 1年 単元「古典に学ぶ(説話文学)」

※『竹取物語』『宇治拾遺物語』

各教科の「子どもが創る授業」モデル



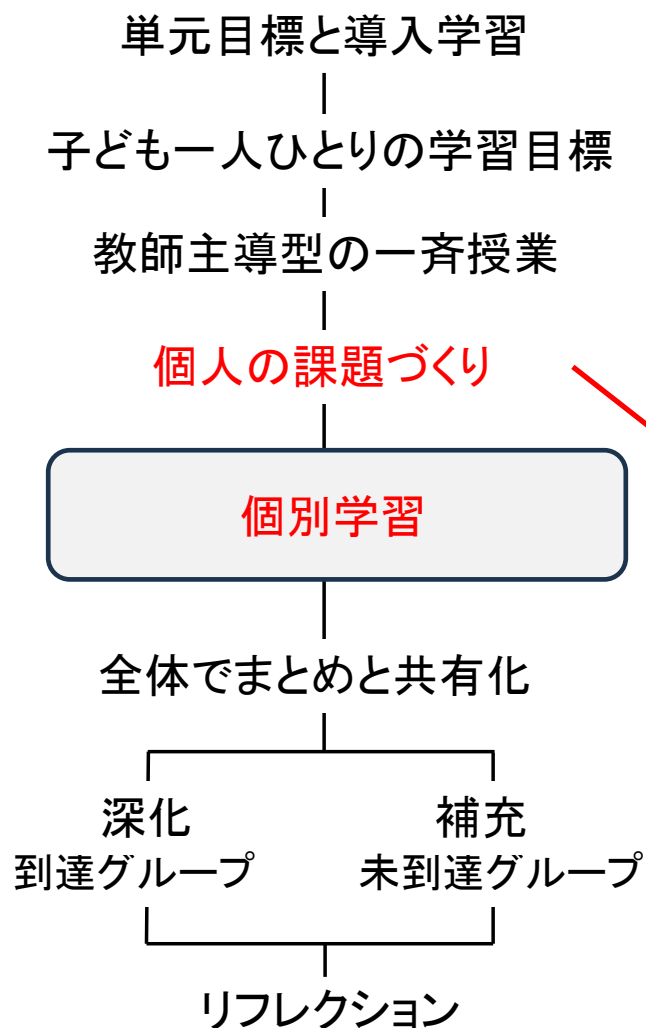
ある生徒の学習目標

私は、古典を学ぶということは、私たちのために残してくれた貴重な祖先のこと(生活習慣や考え方など)を記してあるいわゆる日記を読んでいくということなので、**私たちの考え方などとどう違うのか追究していくのも、なかなかおもしろいことだ**と思う。読み進めていくにあたって、いろいろな面からの人びとの生活の様子やそのころの人の考え方とか、背景をおさえながら読んでいこうと思う。中学になって、新しい文学に親しむという点からも、古典のいろいろな美しさを最終的にはつかみたい。

自己を豊かにする学びとは

- ・様々な事柄に興味・関心を示すこと
- ・「できるようになりたい」「わかるようになりたい」という願いや希望をもつこと
- ・自分への気づきやこだわりをもつこと
- ・学びを通して自信や自己肯定感、有能感を高めること
- ・自分事として学ぶこと
- ・「どうすればよいのだろう」「これではだめだ」などの自己内対話をする

自己の在り方
自己の生き方



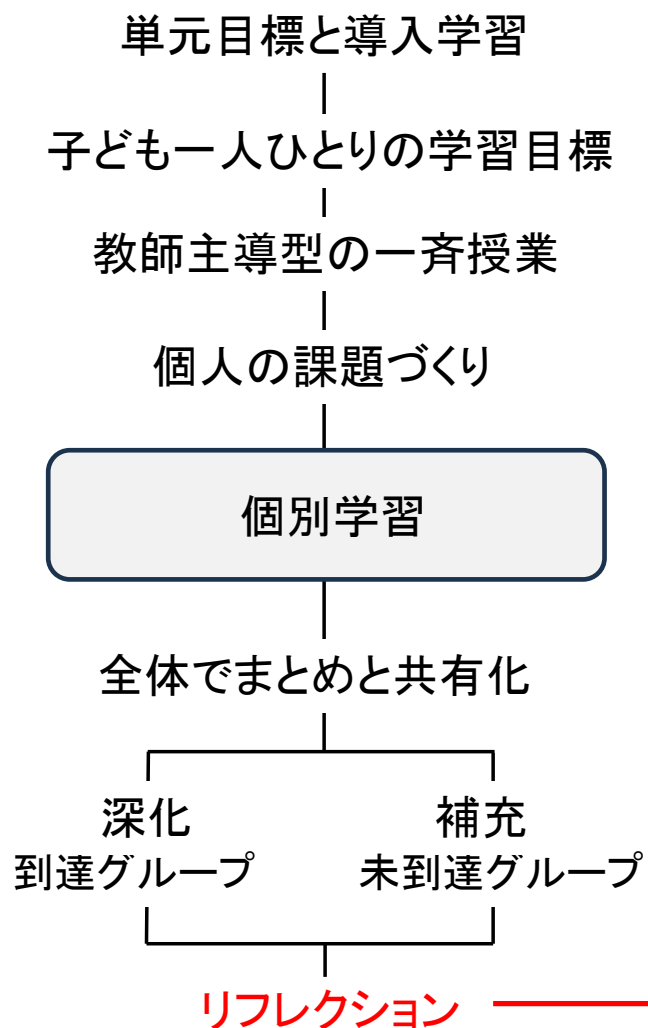
自己を豊かにする学びとは

- ・様々な事柄に興味・関心を示すこと
- ・「できるようになりたい」「わかるようになりたい」という願いや希望をもつこと
- ・自分への気づきやこだわりをもつこと
- ・学びを通して自信や自己肯定感、有能感を高めること
- ・自分事として学ぶこと
- ・「どうすればよいのだろう」「これではだめだ」などの自己内対話をする

ある生徒の個別課題

良秀が自分の家が焼け、奥さんや子どももあぶないのに、**炎を見ていたところがよくわからない**。その内容を読み取って、良秀という人間を明らかにしていきたい。辞典を使って、時代背景をつかんで、**今の私たちとどう違うのか、また共通点があるのか調べていきたい**。

自己の在り方
自己の生き方



ある生徒のリフレクション

私は、古典の学習をして、読み進めるにつれて、なんだか当時の貴族の華やかな時代とか、社会では学んだのだけれどそんなイメージもっていた。私の知っていたこの時代の事の知識とは裏腹に、人々の中の不完全さとか、こっけいさとか、やっぱりこういう本当の時代の顔が見えてきて、時代は変わっても人間は人間だなあと思いました。現在に通じる人間像、それが「等身大にリアルに再現されてくる」そんな皮肉な笑いがこめられていたのがこの教材だったのです。私は、この教材と出会って、いや、初めて古典と出会って、なんだか温かみのある文学だなあと感じました。また、こういう祖先から伝えられてきた、温かみのある文学はこれからの子孫にも、ずっとこういう温かみを忘れないようにと、人から人へ伝えられ、絶えることがないようにしてはいけなかったと思いました。

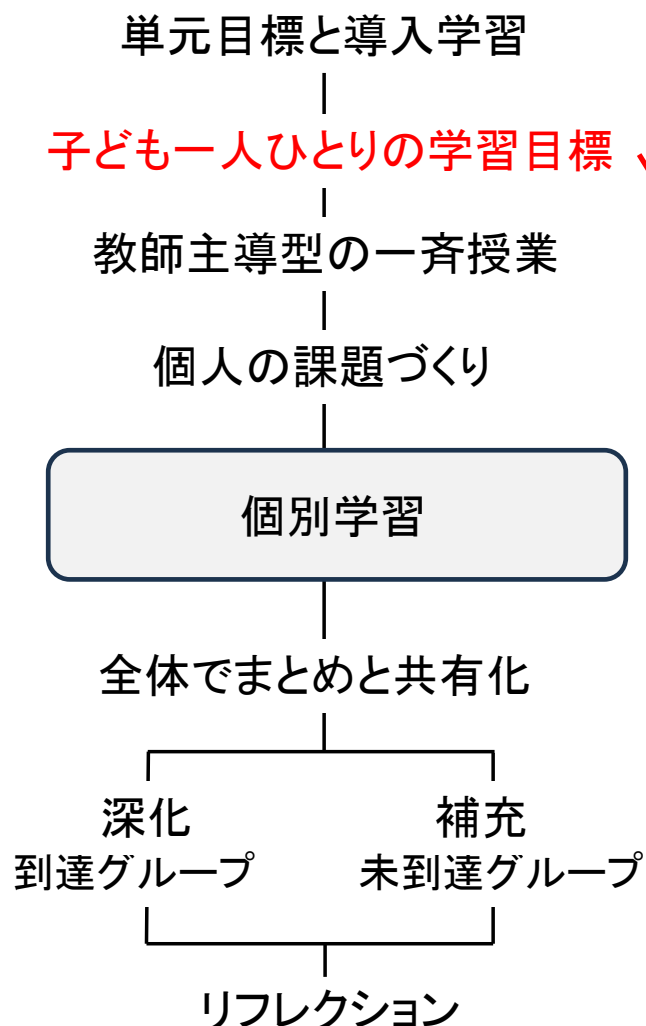
自己を豊かにする学びとは

- ・様々な事柄に興味・関心を示すこと
- ・「できるようになりたい」「わかるようになりたい」という願いや希望をもつこと
- ・自分への気づきやこだわりをもつこと
- ・学びを通して自信や自己肯定感、有能感を高めること
- ・自分事として学ぶこと
- ・「どうすればよいのだろう」「これではだめだ」などの自己内対話をする

<数学科> 1年 ユニット「方程式」

※文字を未知数として考えさせる

各教科の「子どもが創る授業」モデル



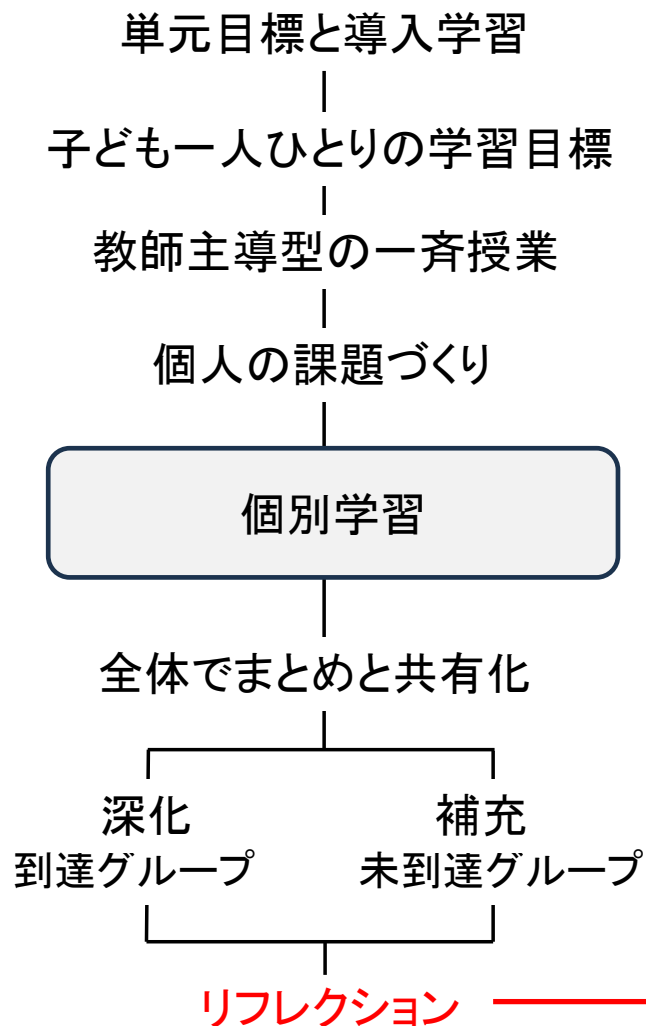
自己を豊かにする学びとは

- ・様々な事柄に興味・関心を示すこと
- ・「できるようになりたい」「わかるようになりたい」という願いや希望をもつこと
- ・自分への気づきやこだわりをもつこと
- ・学びを通して自信や自己肯定感、有能感を高めること
- ・自分事として学ぶこと
- ・「どうすればよいのだろう」「これではだめだ」などの自己内対話をする

ある生徒の学習目標

導入学習で教えてもらった「条件によって判断がつく」という方程式を、まず今まで使ってきたXの使い方とどう違うのかを学び、いろいろな設問を解き、それから応用問題を解いていき、できれば小学校で苦労して解いた「つるかめ算」なども解いてみたい。最後には、学習中にもった疑問を解決し、より一層方程式を知りたい。

自己の在り方
自己の生き方



自己を豊かにする学びとは

- ・様々な事柄に興味・関心を示すこと
- ・「できるようになりたい」「わかるようになりたい」という願いや希望をもつこと
- ・自分への気づきやこだわりをもつこと
- ・学びを通して自信や自己肯定感、有能感を高めること
- ・自分事として学ぶこと
- ・「どうすればよいのだろう」「これではだめだ」などの自己内対話をする

ある生徒のリフレクション

まず、この方程式を学んで最初に思ったことは、**方程式は便利だな**ということです。とても難しく、小学校のとき悩んでいた問題も、方程式を使えばとても簡単に分かります。例えば、**つるかめ算なんていちいちああやってこうやってとやっている**と数分かかるけど、**方程式を使えばすぐできます**。だから、本当にそういうときは、方程式って便利だなと感じますまた、解いていって、 **$x=...$ の形になるときにうれしさも今までに味わったことはありませんでした**。こういうように、この方程式を学ぶにあたって、僕は結構楽しくできました。だから、この気持ちを忘れずに次の単元も学びたいです。

自己の在り方
自己の生き方

本日の内容

- ① 浜松小中学校の「自己の在り方生き方」の歩みと概念化
- ② 「自己の在り方」を「自己の生き方」に繋げるインサイドアウト思考
- ③ 2025年度の研究を見るポイント
- ④ 次期学習指導要領に向けた関連施策





溝上慎一 (2023). インサイドアウト思考—創造的思考から個性的な学習・ライフの構築へ— 東信堂



第I部 インサイドアウト思考論

- 第1章 思考とは—認知科学を視座として
- 第2章 二つの思考様式
—インサイドアウト思考とアウトサイドイン思考
- 第3章 インサイドアウト思考の身に付け方
- 第4章 学校教育でも育成されるインサイドアウト思考
- 第5章 個人的な思考が社会的な思考となるために

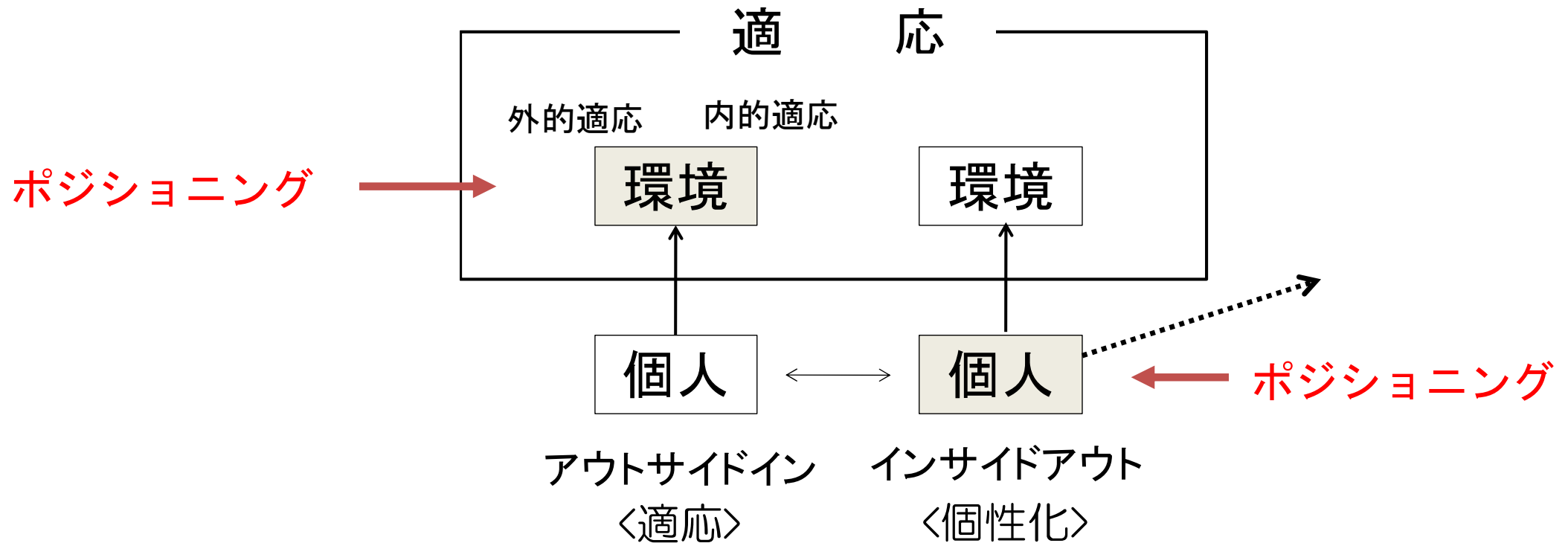
第II部 個人化・多様化した現代社会における個性的なライフの構築

- 第6章 個性的なライフを構築するためのインサイドアウト思考
- 第7章 知識・技能が社会構造的に継承されなくなった現代で求められるインサイドアウト思考
- 最後に—ウェルビーイング論へ

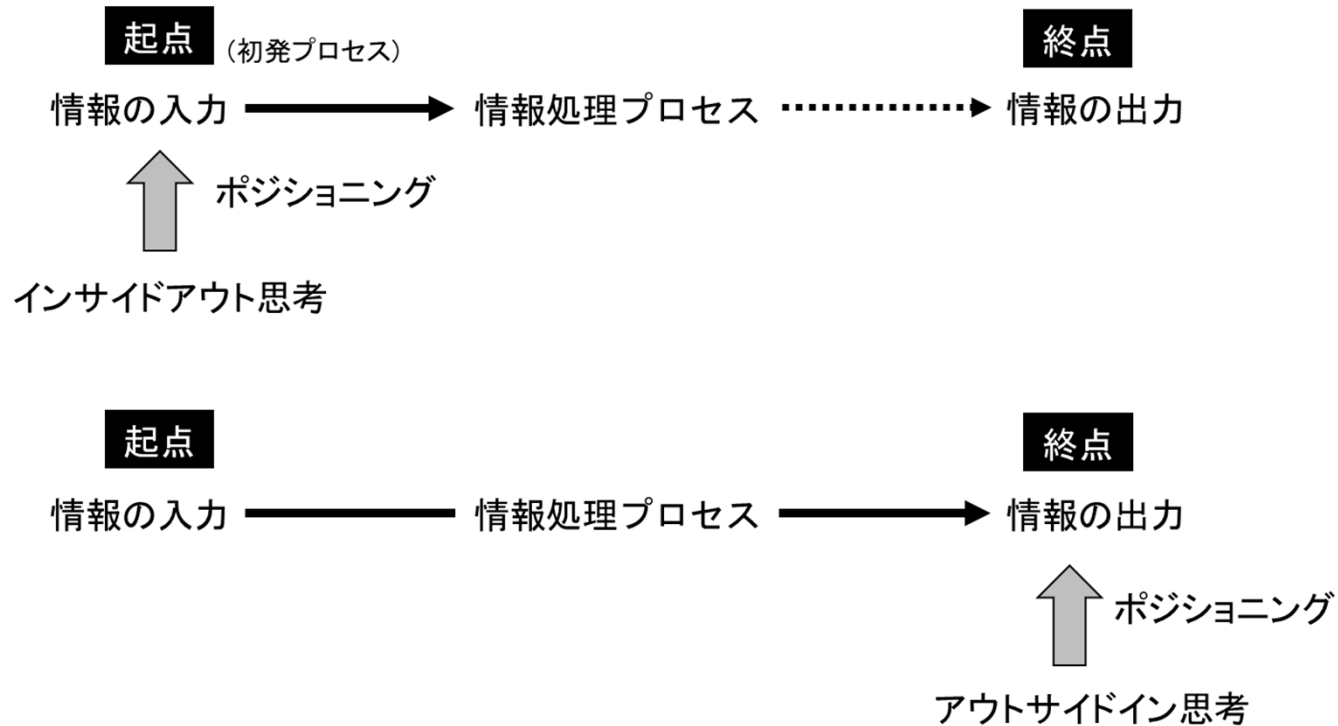
アウトサイドインとインサイドアウト

Outside-in

Inside-out



アウトサイドイン思考 と インサイドアウト思考



これまでの代表的な思考論をアウトサイドイン思考として位置づける

- 推論（演繹・帰納・仮説推論）
- 問題解決 • 意思決定 • アナロジー
- 論理的思考 • 批判的思考

セミナー学習に見る インサイドアウト思考

セミナー学習の課題例

(3年生女子)

私は国語が好きだ。中でも小説に一番興味をもっている。また、私は将来、国語の教師か文学者になりたいと思っている。他には、日本史の流れに対する興味・関心も強い。そのため、明治以降の先人の考え方、生き方を知り、それに対する自分の意見や考えを明確にしたい。そして、これからの自分の価値観を形成する上での糧としたい。

(3年生男子)

身のまわりで起こる出来事、問題・・・佐鳴湖の汚染・・・の状況を調べ、その原因を考えたい。その結果、この問題はどうしたら自分たちで解決できるのか、謎をつかみたい。そして、そういうことを通して、社会のいろいろな問題にも考えをふくらませていきたい。

(2年生女子)

英語のことわざを一つ一つ丁寧に調べてみたい。そして興味あることわざについて深く掘りさげ、日本人とアメリカ人、イギリス人とのものの見方・考え方の違いを考えてみたい。

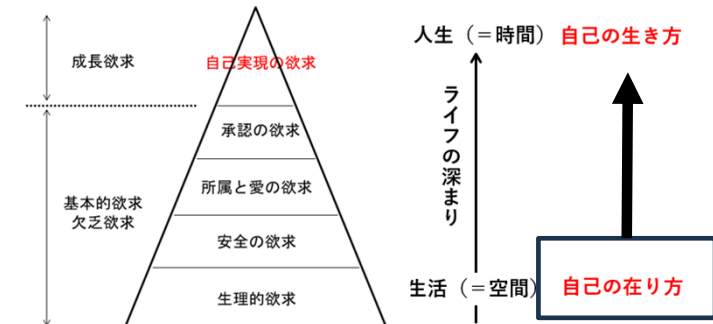
『自己の生き方を探る授業の創造』(1992年)

自己の在り方
自己の生き方

自己を豊かにする学びとは

- ・様々な事柄に興味・関心を示すこと
- ・「できるようになりたい」「わかるようになりたい」という願いや希望をもつこと
- ・自分への気づきやこだわりをもつこと
- ・学びを通して自信や自己肯定感、有能感を高めること
- ・自分事として学ぶこと
- ・「どうすればよいのだろう」「これではだめだ」などの自己内対話をする

マズローの欲求階層・自己実現論

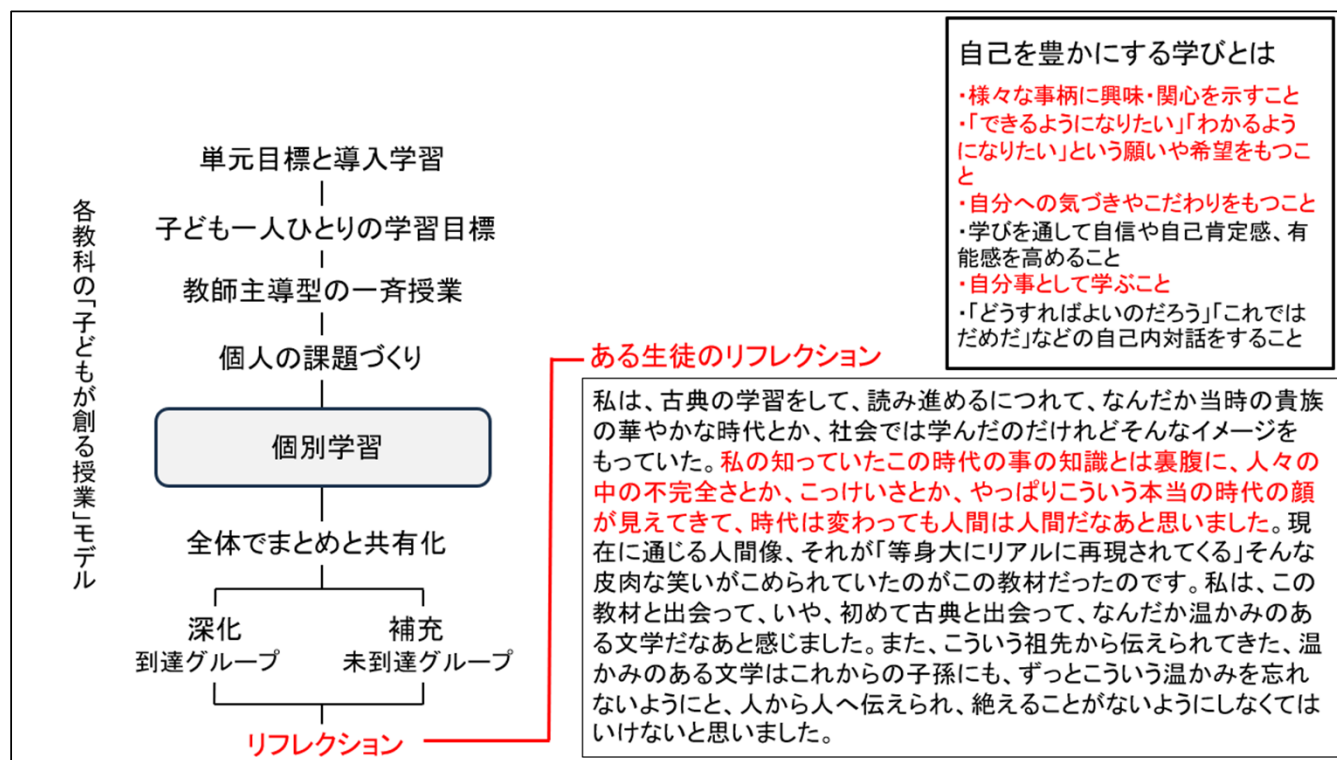


インサイドアウト思考

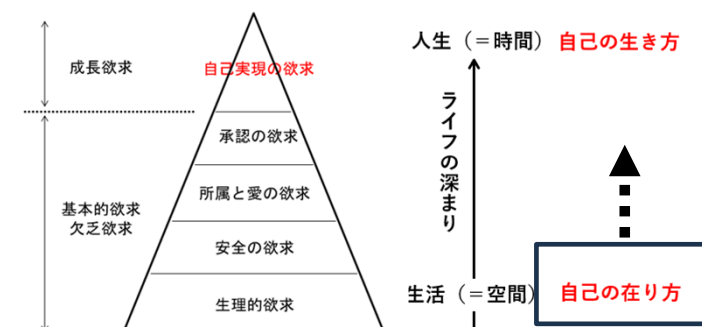
(枠がゆるい自由な思考)

各教科の学習に見る アウトサイドイン思考

<国語科> 1年 単元「古典に学ぶ(説話文学)」



マズローの欲求階層・自己実現論



+

アウトサイドイン思考

(枠の中での思考)

本日の内容

- ① 浜松小中学校の「自己の在り方生き方」の歩みと概念化
- ② 「自己の在り方」を「自己の生き方」に繋げるインサイドアウト思考
- ③ 2025年度の研究を見るポイント
- ④ 次期学習指導要領に向けた関連施策

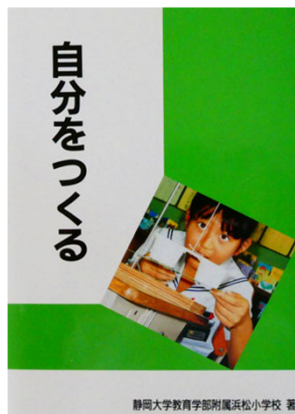


静岡大学教育学部附属浜松小中学校 の研究活動の展開



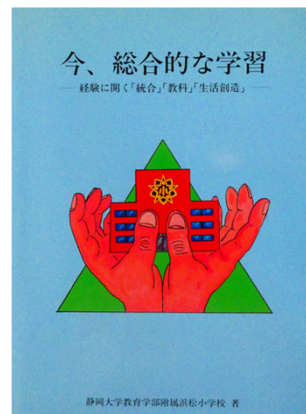
1992年

自己実現
自己の生き方



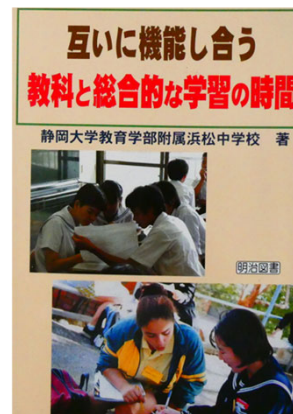
1994年

自分をつくる



1999年

自分らしく生きる力



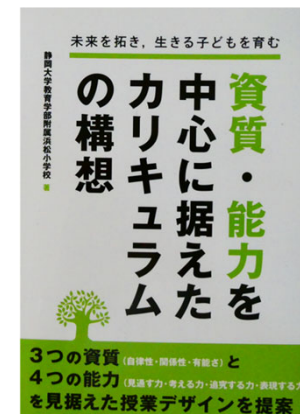
2001年

教科と
総合的な学習



2011年

自己と学び



2016年

未来を拓き
生きる子ども

学習指導要領

『平成元(1989)年改訂』
新しい学力観
観点別学習状況の評価
関心・意欲・態度

『平成10(1998)年改訂』
生きる力とゆとり教育
授業総時数の縮減
総合的な学習の時間

『平成20(2008)年改訂』
生きる力と確かな学力
言語活動の充実
習得・活用・探究

『平成29(2017)年改訂』
社会に開かれた教育課程
資質・能力の三つの柱
主体的・対話的で深い学び
カリキュラム・マネジメント

2021年～小中一貫教育へ 第5回教育研究(2025年)

学校教育目標

「自己を磨き 他とともに **よりよい未来を創造する子**」の育成

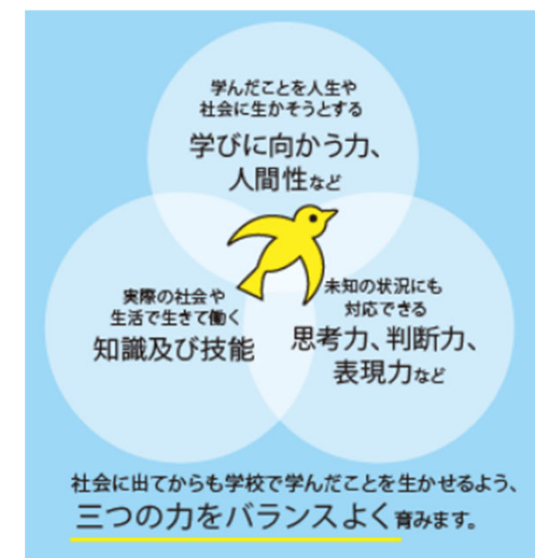
＞ VUCAの時代
Society 5.0

課題

- ・コンピテンシーベースへのカリキュラムの構造転換
→能力獲得主義に陥る懸念
- ・教師の期待する正解を探す傾向や耳あたりのよい言葉による表面的な理解にとどまっている傾向

研究主題 (2024年～2年目)

「**自己の在り方・生き方**」を拡げ、深める子どもの育成



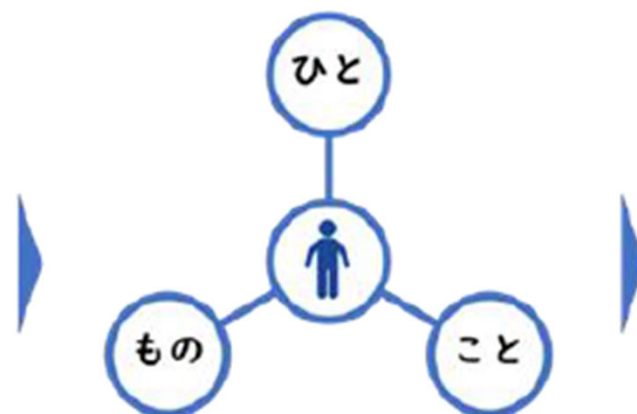
資質・能力の三つの柱

「自己の在り方・生き方」を拡げ・深める



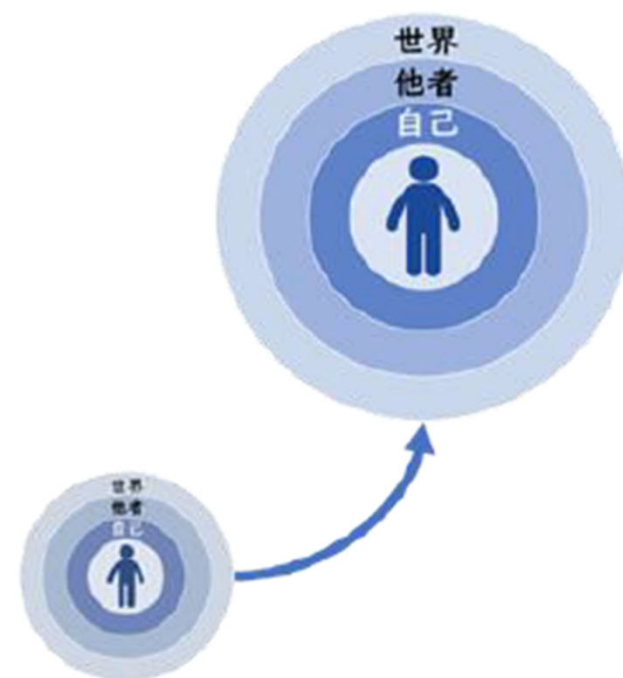
哲学的に問うことを重視し、仲間と本質を探究し、見いだした意味を問い直す集団。対等な立場での民主的な対話の場の経験を得る機会。

学びの仲間（哲学探究の共同体）



「何を成すべきか」を考え、目的を問い直し、自分自身の周りの「ひと・もの・こと」との関係性を再構成し、よりよいものに変革していく一連の過程や発揮される力。

エージェンシー



子ども一人ひとりが「自己・他者・世界」のとらえを更新し、自分自身でよりよいと考える「自己の在り方・生き方」を歩むこと。

ウェルビーイング

「My Life領域」 どうよりよく生きるか

「共生・協働の感度」を重点とする道徳性



子どもも大人も誰一人取り残さないために、対話を通して、自己と他者の在り方・生き方を知ろうと働きかけ、個性や価値観の違いを認め、お互いのよさを生かしながら、共生・協働のための「ひと・もの・こと」との新たな関係性の創造を目指す道徳的な心情、判断力、実践意欲と態度

「自己の在り方・生き方」の自覚と実現による探究



3領域における「My Life領域」での学びを補充・深化・統合するMy Life科において、学びの仲間の対話によって、経験を道徳的諸価値の理解を基に見つめ、「自分ならどうするか」を価値で考える。



道徳的諸価値の理解の基、見つめ直した「ひと・もの・こと」との関係性の中での「自己の在り方・生き方」の自覚から、「何を成すべきか」を考える。

3領域において、「学びの仲間」による目的の再構成や、目標の設定を通して、「ひと・もの・こと」との関係性をよりよいものに変革していく。

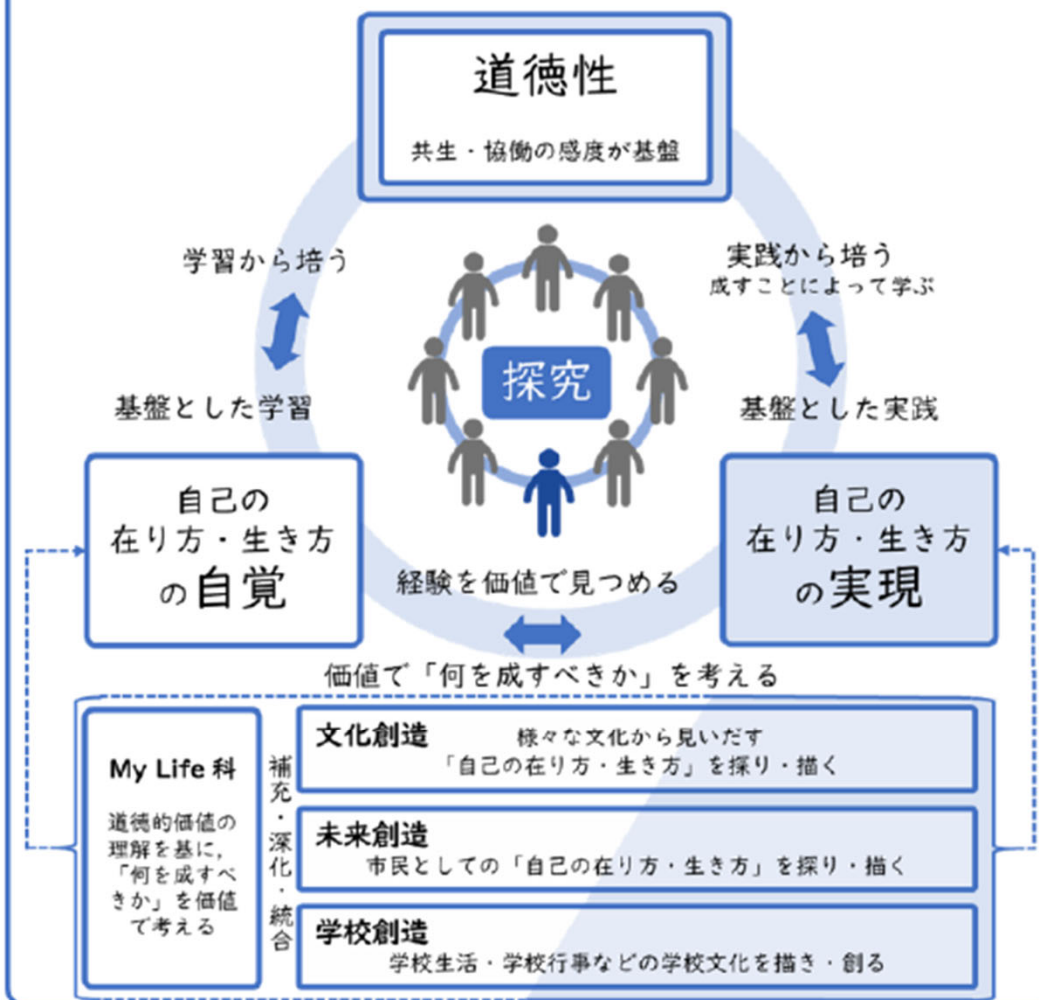
「自己・他者・世界」のとらえを更新し、子ども一人ひとりが自分自身で見いだしたよりよい「自己の在り方・生き方」を歩む。

自覚

探究

実現

「自己の在り方・生き方」を拡げ・深める 道徳性の育成

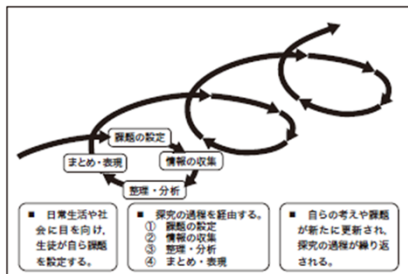


(Point1) 自己の在り方生き方を教育課程の推進テーマに

探究的な学び

学習指導要領(平成10-11年改訂)で登場

(1998-1999年)



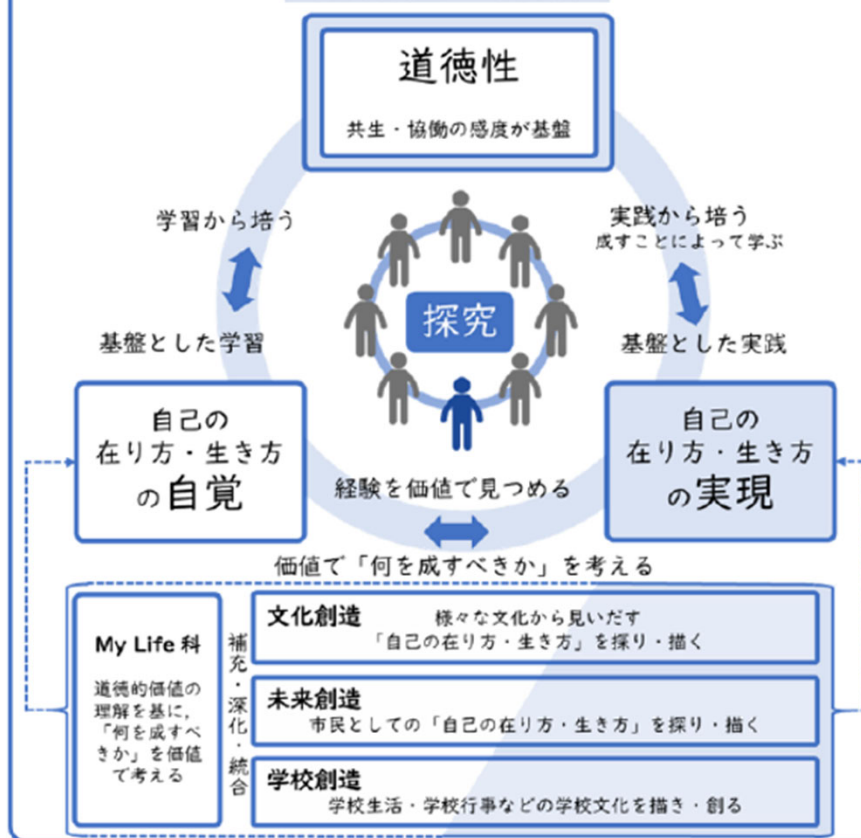
・探究のプロセス

- 課題の設定
- 情報の収集
- 整理・分析
- まとめ・表現

- + 総合(教科等横断)
 - ・言葉通り、各教科等をまたがった学習
 - ・各教科等にとらわれることなく実社会・実生活と関連付ける
 - という2つの意味がある
- + 自己の生き方(小中学校)
自己の在り方生き方(高校)
 - ・自らの課題を発見する
 - ・ライフ(生活・人生)
 - ・自己、価値観、アイデンティティ

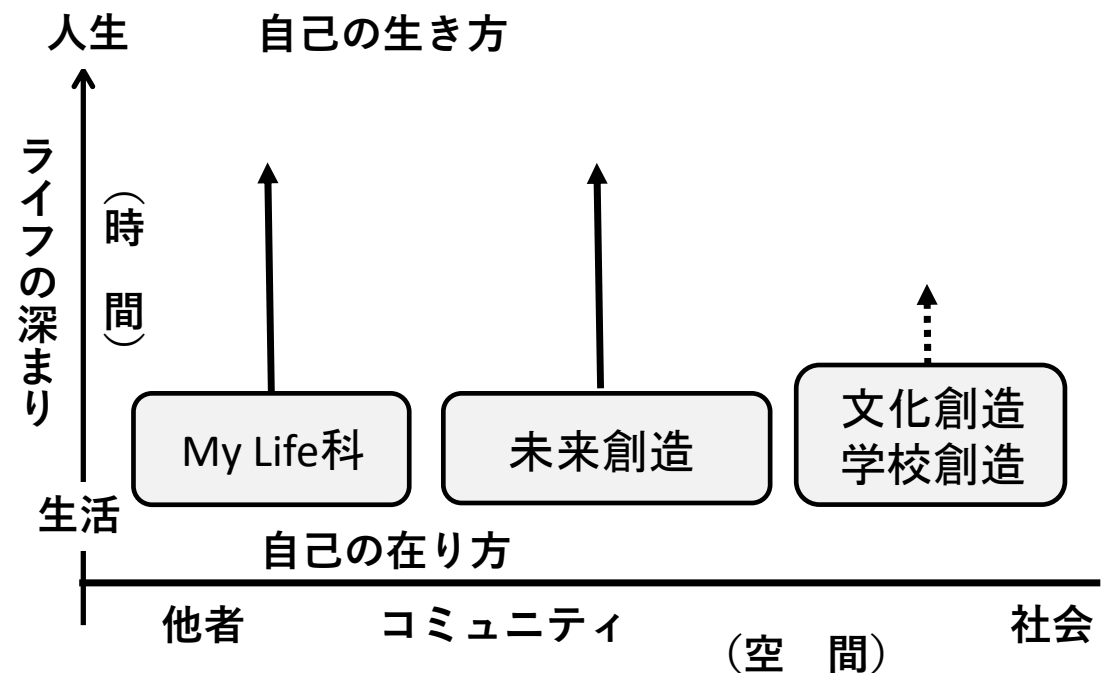
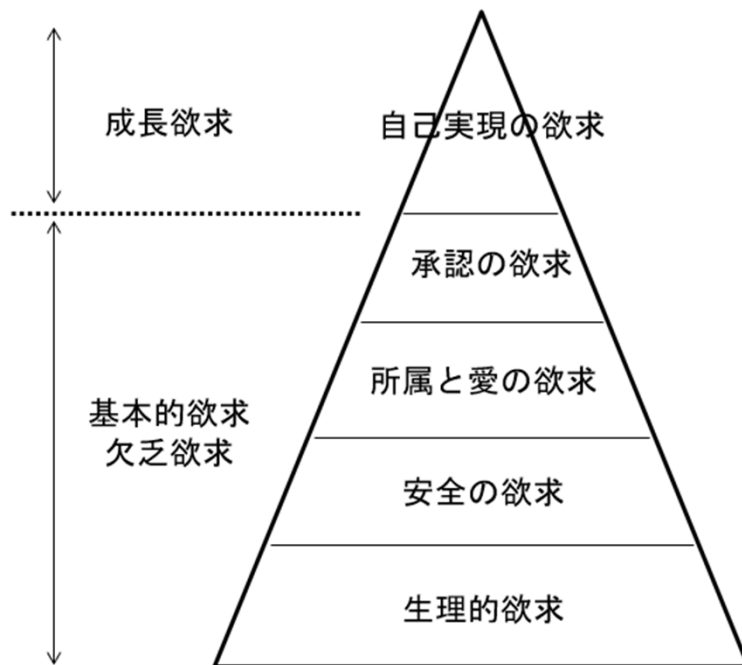


「自己の在り方・生き方」を拡げ・深める 道徳性の育成



(Point2)「自己の在り方生き方」を拡げ、深める教育課程の構造

マズローの欲求階層・自己実現論



- ・セミナー学習＞生活・総合 / Life Time科へ
- ・「子どもが創る授業」→「文化創造」(共通課題: パフォーマンス課題) + 教育課程の構造的対応

(Point3) 他者との対話 を徹底する

道徳性(共生・協働)

2021年～小中一貫教育へ 第5回教育研究(2025年)

学校教育目標

「自己を磨き 他とともに よりよい未来を創造する子」の育成

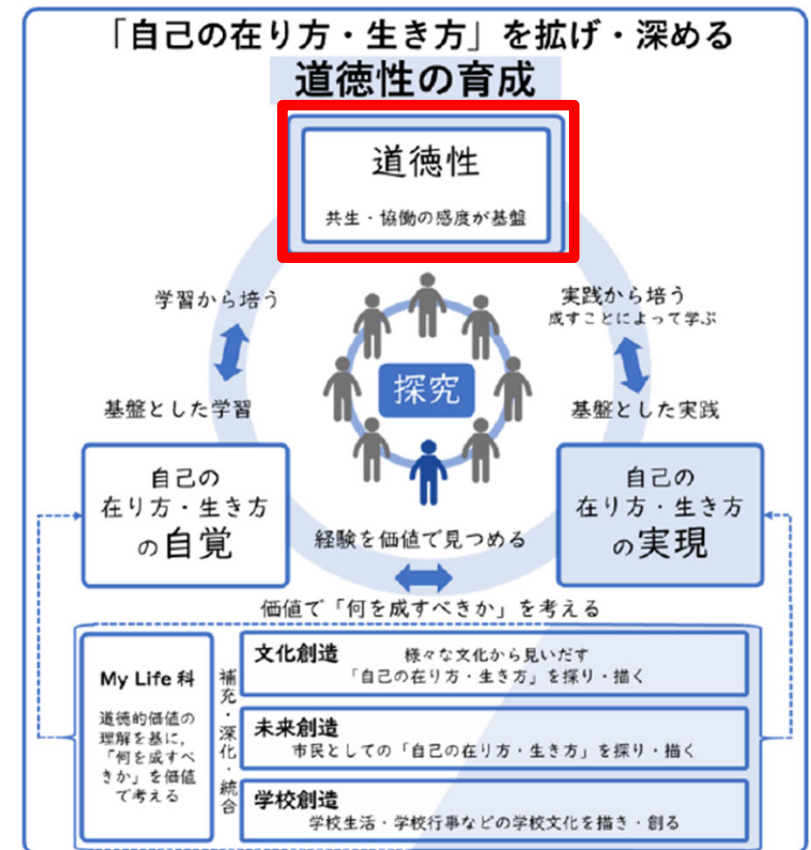
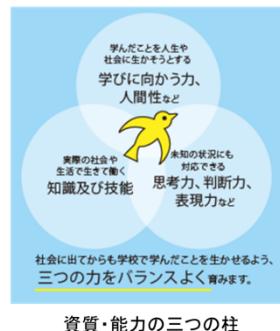
> VUCAの時代
Society 5.0

課題

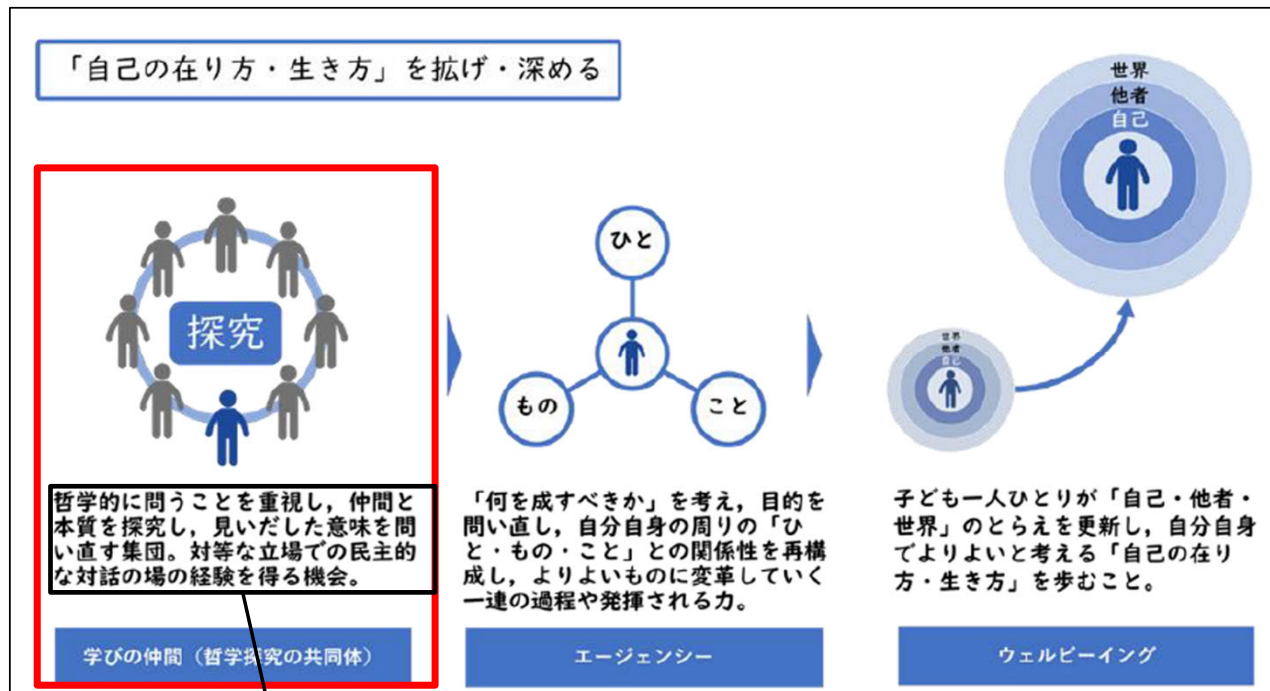
- ・コンピテンシーベースへのカリキュラムの構造転換
→能力獲得主義に陥る懸念
- ・教師の期待する正解を探す傾向や耳あたりのよい言葉による表面的な理解にとどまっている傾向

研究主題 (2024年～2年目)

「自己の在り方・生き方」を拓げ、深める子どもの育成



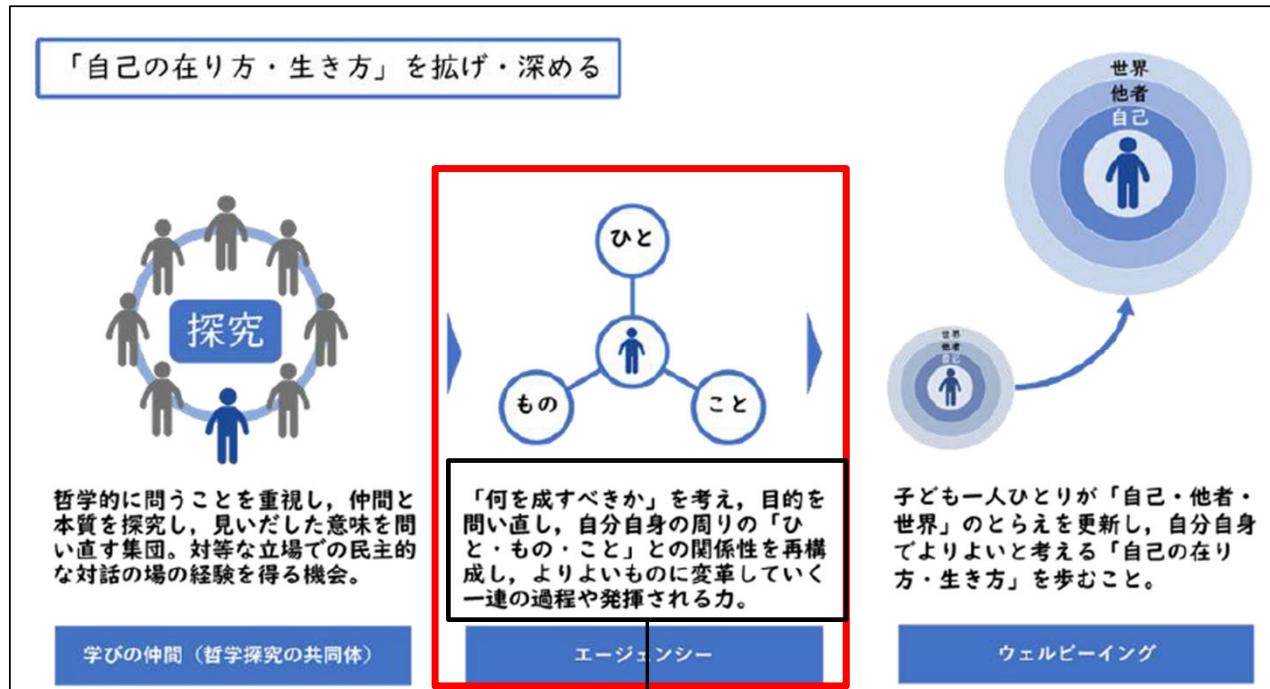
(Point4) 哲学 探究 の共同体



哲学的に問うことを重視し、仲間と本質を探究し、見いだした意味を問い直す集団、対等な立場での民主的な対話の場の経験を得る機会

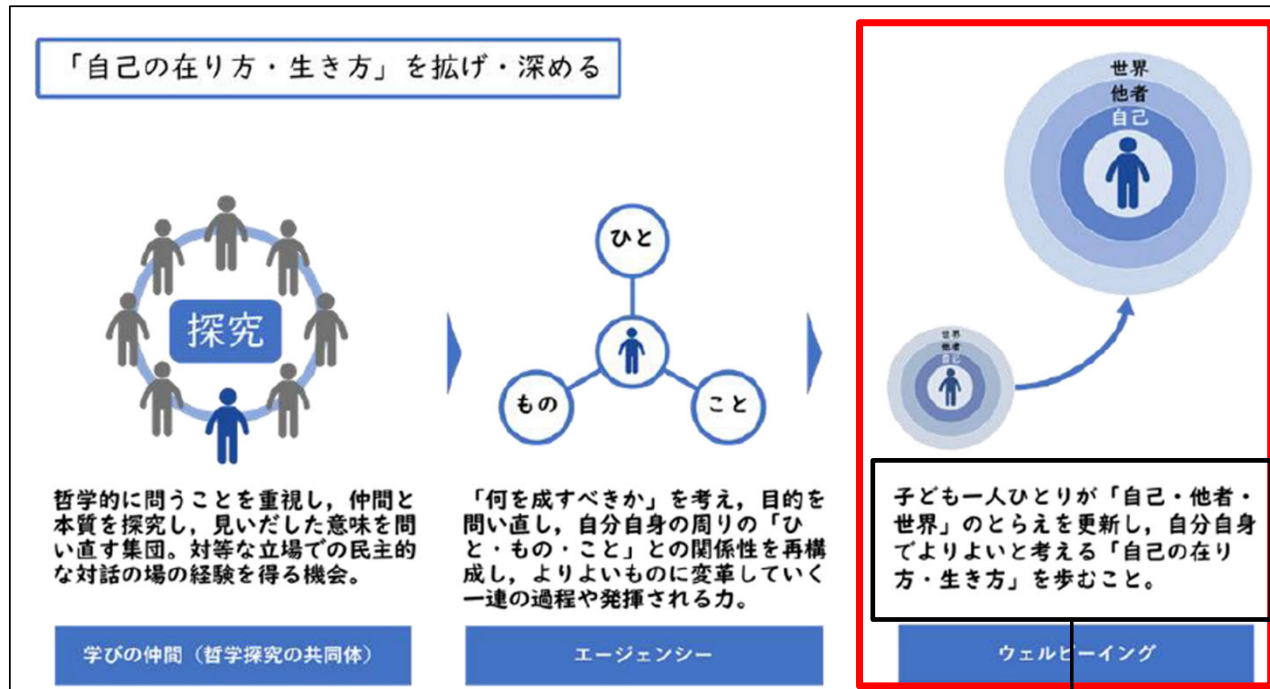
＞習得・活用・探究の学びの過程

(Point5) エージェンシー



「何をなすべきか」を考え、目的を問い直し、自分自身の周りの「ひと・もの・こと」との関係性を再構成し、よりよいものに変革していく一連の過程や発揮される力

(Point6) ウェルビーイング



子ども一人ひとりが「自己・他者・世界」のとらえを更新し、自分自身でよりよいと考える「自己の在り方・生き方」を歩むこと

いくつか解説します

(解説) 他者

自己実現しつつある人間像

『自己の生き方を探る授業の創造』(1992年)

すべての経験に開かれた心を持ち、価値実現に対して強力な欲求をもち続け、生涯にわたって心身共に傾倒して取り組むことができる人間

具体的な生徒像

他者との関わりで自己を振り返り、自己の可能性を信頼して自己を改善し、自己を表現し、自己の「価値観の形成」をめざす生徒

- ・将来の展望の上に、自己の内面世界に根ざした目標や課題を設定し、自らの方法で意欲的に課題を追究して解決し、評価できる。
- ・相互の内面世界を尊重し合う、豊かな人間関係を築いていくことができる。
- ・人間の素晴らしさに気づき、かけがえのない人生を、自己の責任において創造しようとする態度を持ちつづけることができる。

1992年の時点でも「他者」はすでに理論的枠組みに組み込まれていた(1992年)



(Point3) 他者との対話 を徹底する

道徳性(共生・協働)

2021年～ 小中一貫教育へ 第5回教育研究(2025年)

学校教育目標

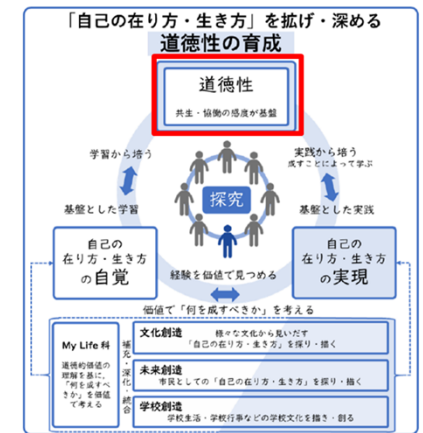
「自己を磨き **他とともに** よりよい未来を創造する子」の育成 > VUCAの時代 Society 5.0

課題

- ・コンピテンシーベースへのカリキュラムの構造転換
→能力獲得主義に陥る懸念
- ・教師の期待する正解を探す傾向や耳あたりのよい言葉による表面的な理解にとどまっている傾向

研究主題 (2024年～2年目)

「自己の在り方・生き方」を拡げ、深める子どもの育成



「他者」は道徳性の本質として理論的に強化されている(2025年)

(民主主義、多様性の包摂)

他者の森をかけ抜けて自己になる

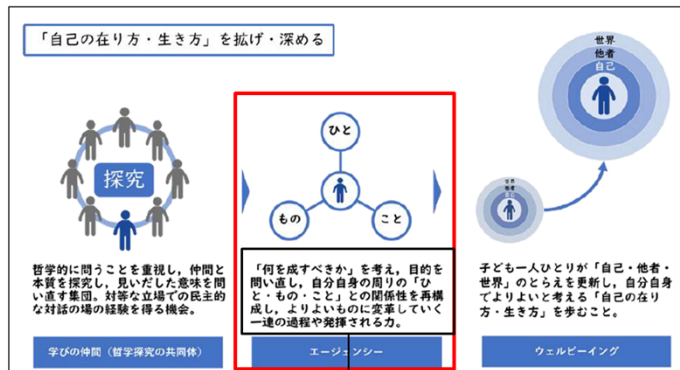


- ・ 人の発達是他者理解が自己理解に先行する
- ・ 自己の「強意」の働き
I myself think that~ の会話の形式
- ・ 他者との比較や関係性によって価値観、自己像(自己概念)は形成される



(解説) エージェンシー

(Point5) エージェンシー

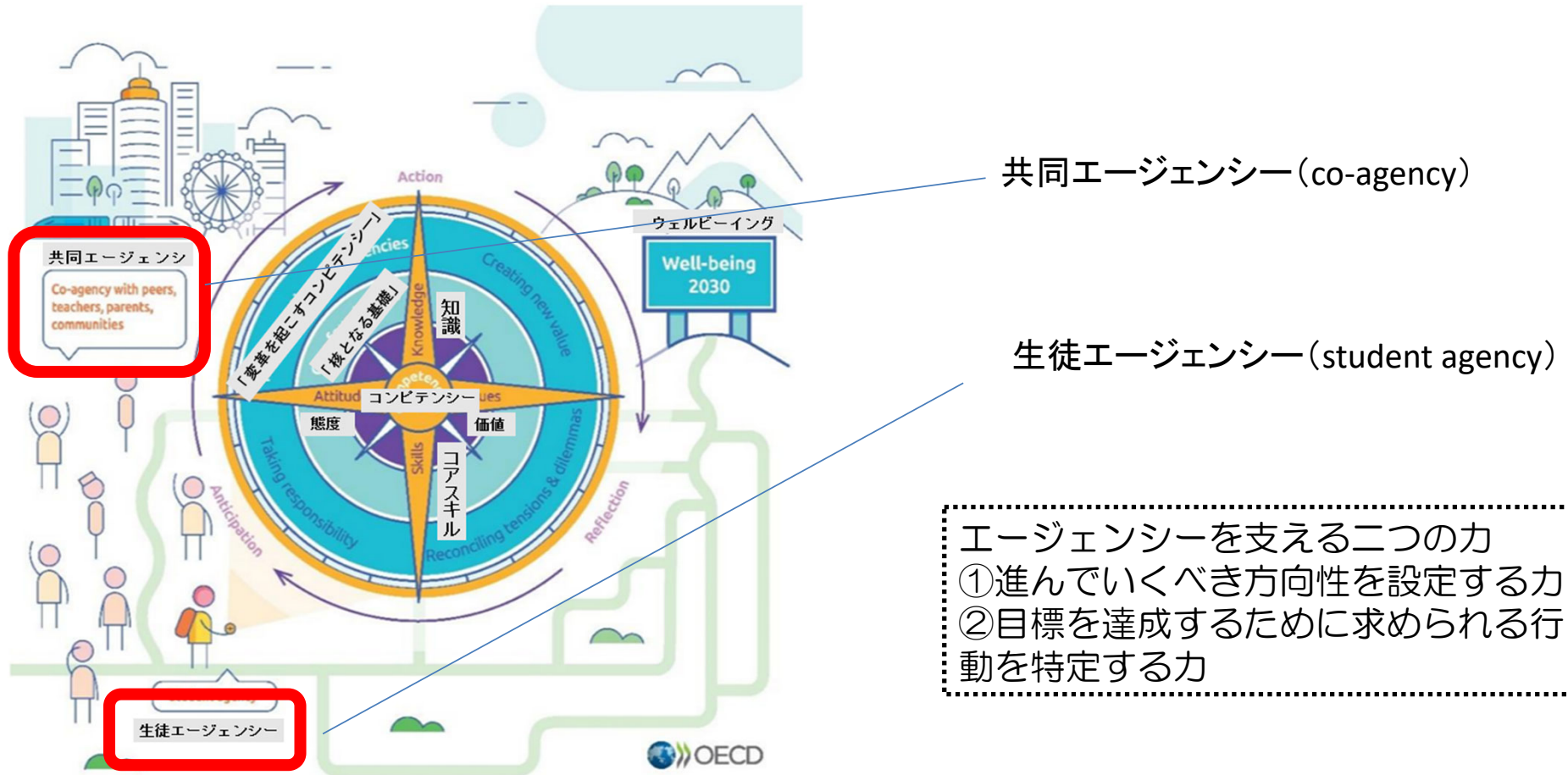


「何をなすべきか」を考え、目的を問い直し、自分自身の周りの「ひと・もの・こと」との関係性を再構成し、よりよいものに大変革していく一連の過程や発揮される力

Q. エージェンシー＝主体性ではダメか？

Q. 文科省「主体的な学び」との関連は？

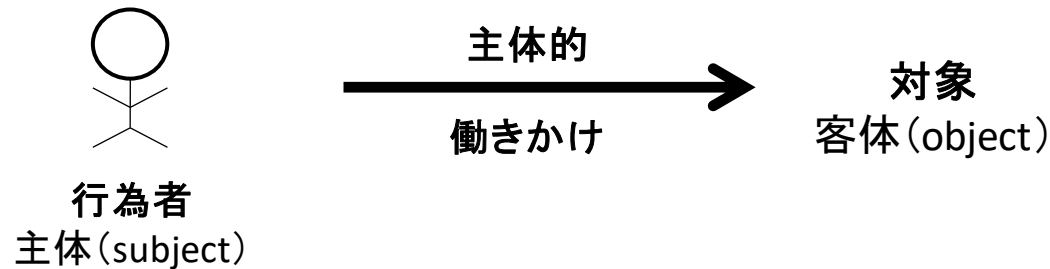
OECD Education 2030 ラーニングコンパス



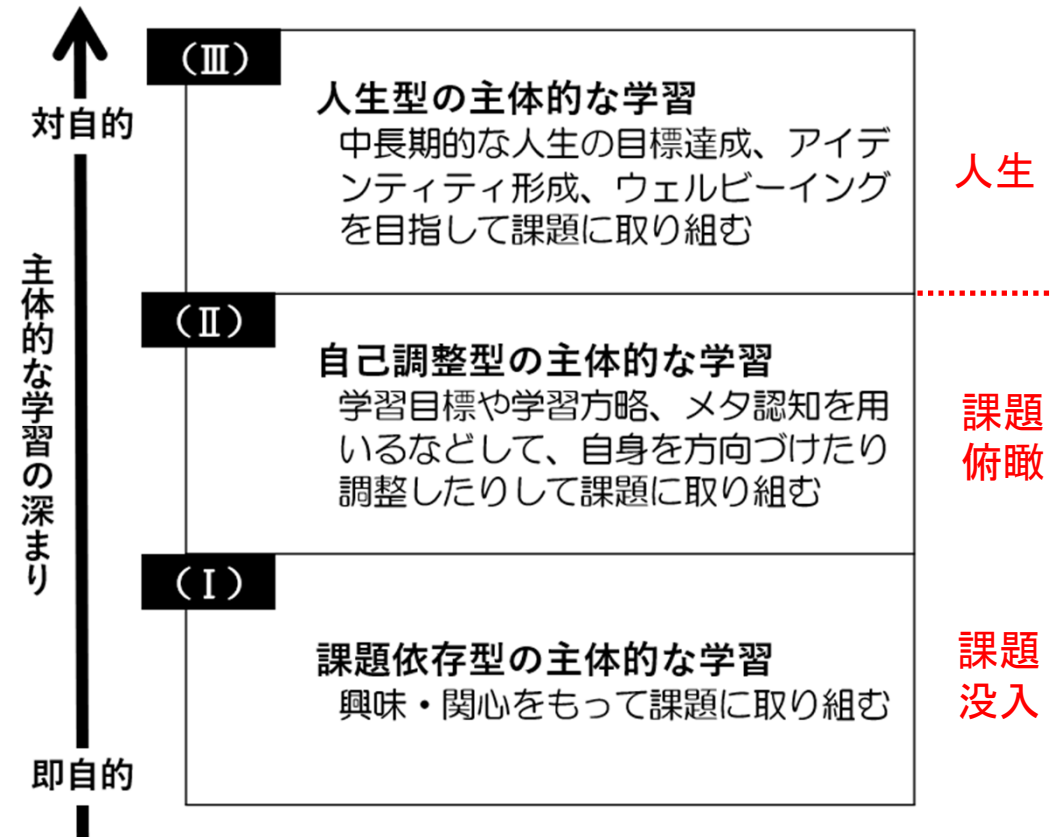
(文献) 白井俊 (2020). OECD Education2030プロジェクトが描く教育の未来－エージェンシー、資質・能力とカリキュラム－ ミネルヴァ書房

主体性 3層から成る主体的な学習スペクトラム

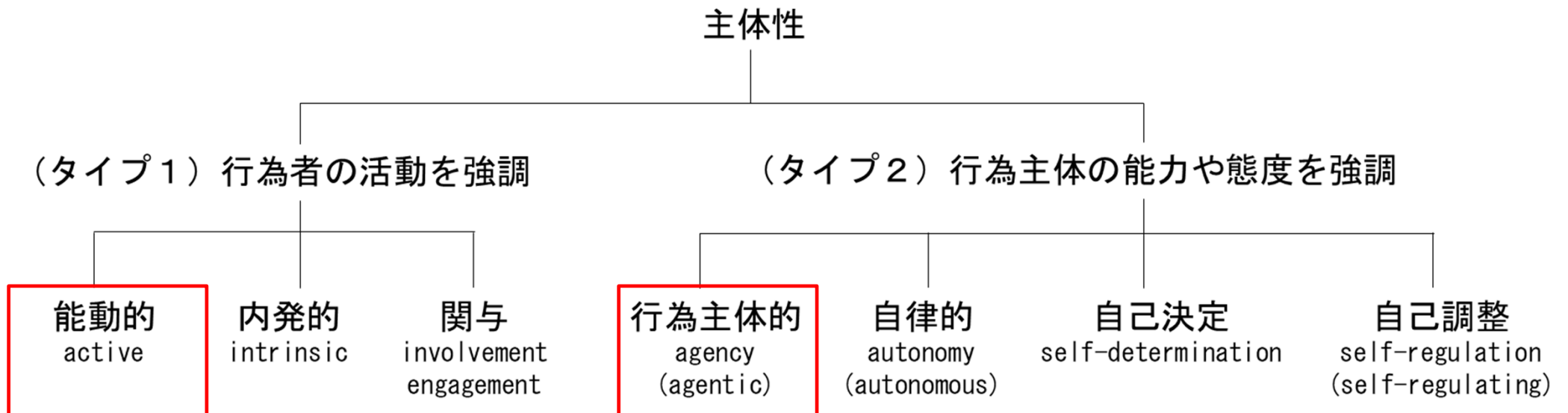
主体的な学習＝「行為者（主体）が対象（客）にすすんで働きかけるさま」



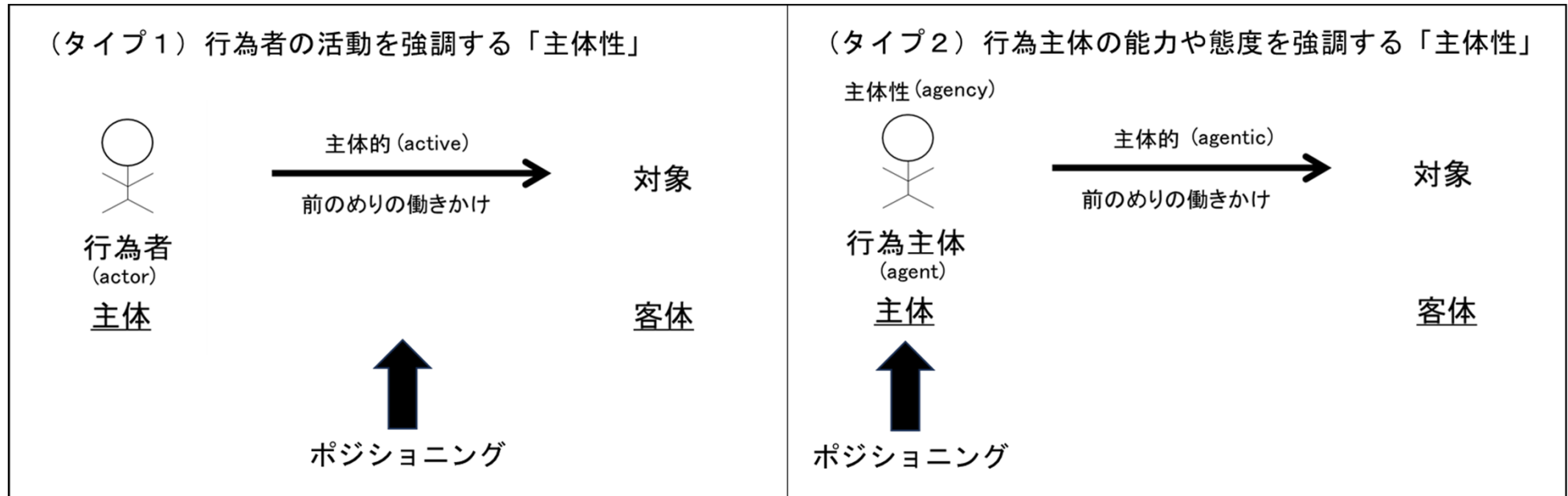
＜主体的な学び＞（新学習指導要領）
学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連づけながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動をふり返って次に繋げる学び。



主体性の様々な近接用語と構造的関係性



ポジショニングによって強調が異なる主体性



能動的 (active)

内発的 (intrinsic)

関与 (involvement/engagement)

行為主体的 (agency/agentic)

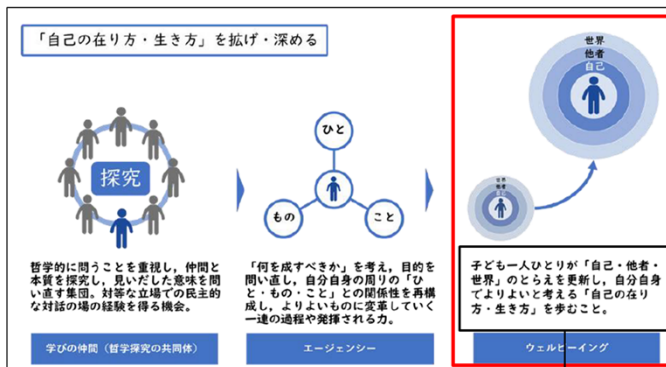
自律的 (autonomy/autonomous)

自己決定 (self-determination)

自己調整 (self-regulation/self-regulating)

(解説) ウェルビーイング

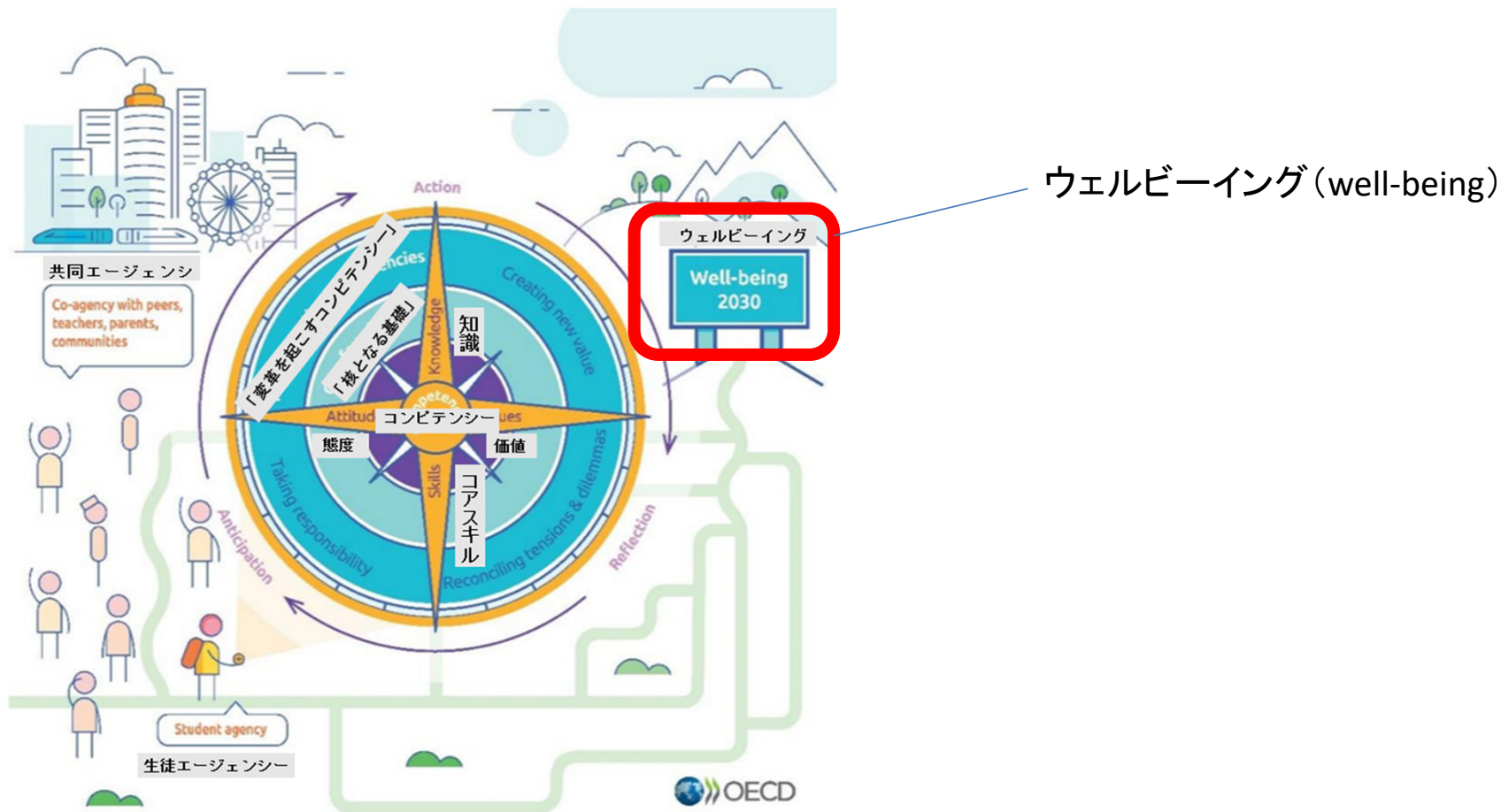
(Point6) ウェルビーイング



子ども一人ひとりが「自己・他者・世界」のとらえを更新し、自分自身でよりよいと考える「自己の在り方・生き方」を歩むこと

→ウェルビーイング＝幸福ではなく
ウェルビーイング＝自己の在り方・生き方、自己実現としている点が秀逸です！

OECD Education 2030 ラーニングコンパス



(文献) 白井俊 (2020). OECD Education2030プロジェクトが描く教育の未来－エージェンシー、資質・能力とカリキュラム－ ミネルヴァ書房

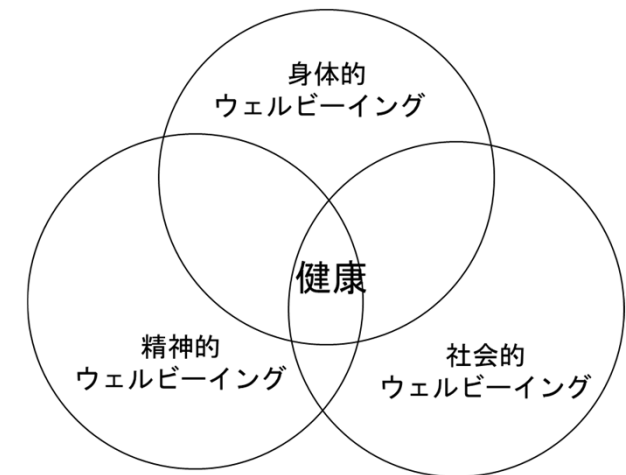
日本社会に根差したウェルビーイングの向上

『教育振興基本計画』（令和5年6月16日閣議決定）

○ ウェルビーイングとは身体的・精神的・社会的に良い状態にあることをいい、短期的な幸福のみならず、生きがいや人生の意義など将来にわたる持続的な幸福を含むものである。また、個人のみならず、個人を取り巻く場や地域、社会が持続的に良い状態であることを含む包括的な概念である。

POINT

- ・ 身体的・精神的・社会的に良い状態
- ・ 日々の生活から人生までの幸福を対象とする
- ・ 個人の良い状態だけでなく、地域・社会の良い状態をも対象とする

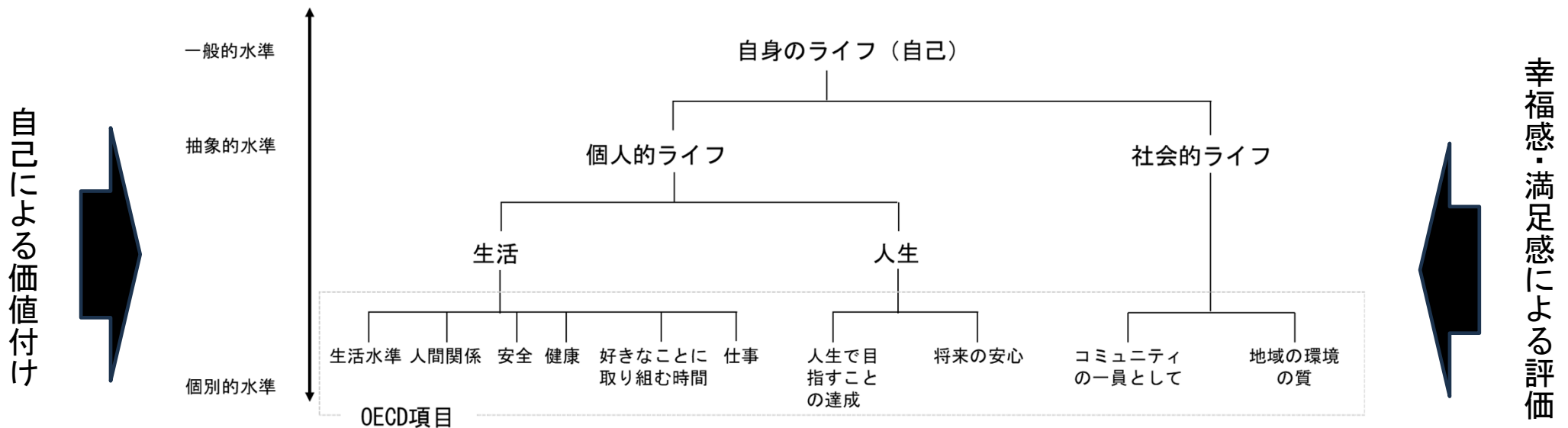


WHO（世界保健機関）憲章（1948）における「健康（health）」の定義

ウェルビーイングとは？

(溝上の定義)

ウェルビーイングとは、**主観的に良しと評価する「自身のライフ」**を過ごしている状態である
(幸福感・満足感) (自己) (生活・人生)

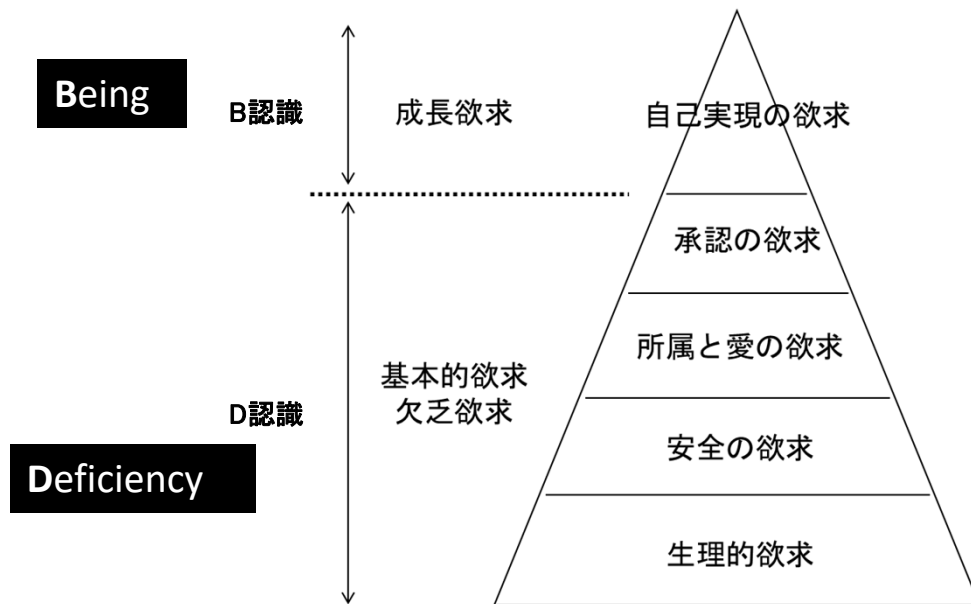


アリストテレスは『ニコマコス倫理学』で、「よく活動すること (Doing well)」 「よく生きること (Living well)」の結果として感じられる幸福を論じた (=幸福・エウダイモニア論)。

ウェルビーイング前史 1950-1970年代

(溝上の定義)

マズローの欲求階層・自己実現論



フロムの2つの存在様式の転換

- 持つ様式 (to have / having)
- ある様式 (to be / being)

生きがい (神谷美恵子, 1966)

→ウェルビーイング
≡自己実現
≡自己の在り方生き方

(文献)

- ・ マズロー, A. H. (著) 小口忠彦 (訳) (1987). 人間性の心理学 [改訂新版] 産業能率大学出版部
- ・ フロム, E. (著) 佐野哲郎 (訳) (1977). 生きるということ / Fromm, E. (1976). To have or to be? New York: Harper & Row.

著作紹介



溝上慎一著（2024.1.刊行）

『幸福と訳すな！ウェルビーイング論
ー自身のライフ構築を目指してー』（東信堂）

- 第1章 ウェルビーイングとは
- 第2章 ウェルビーイングへの主観的アプローチ
- 第3章 ウェルビーイング論の歴史的・社会的背景
ー物質的・経済的な充足の先にあるものは？
- 第4章 鳥取県倉吉市のウェルビーイングを視座とする
地方創生ー小田急電鉄主宰IFLATsの事業
- 第5章 ウェルビーイングの危うい捉え方

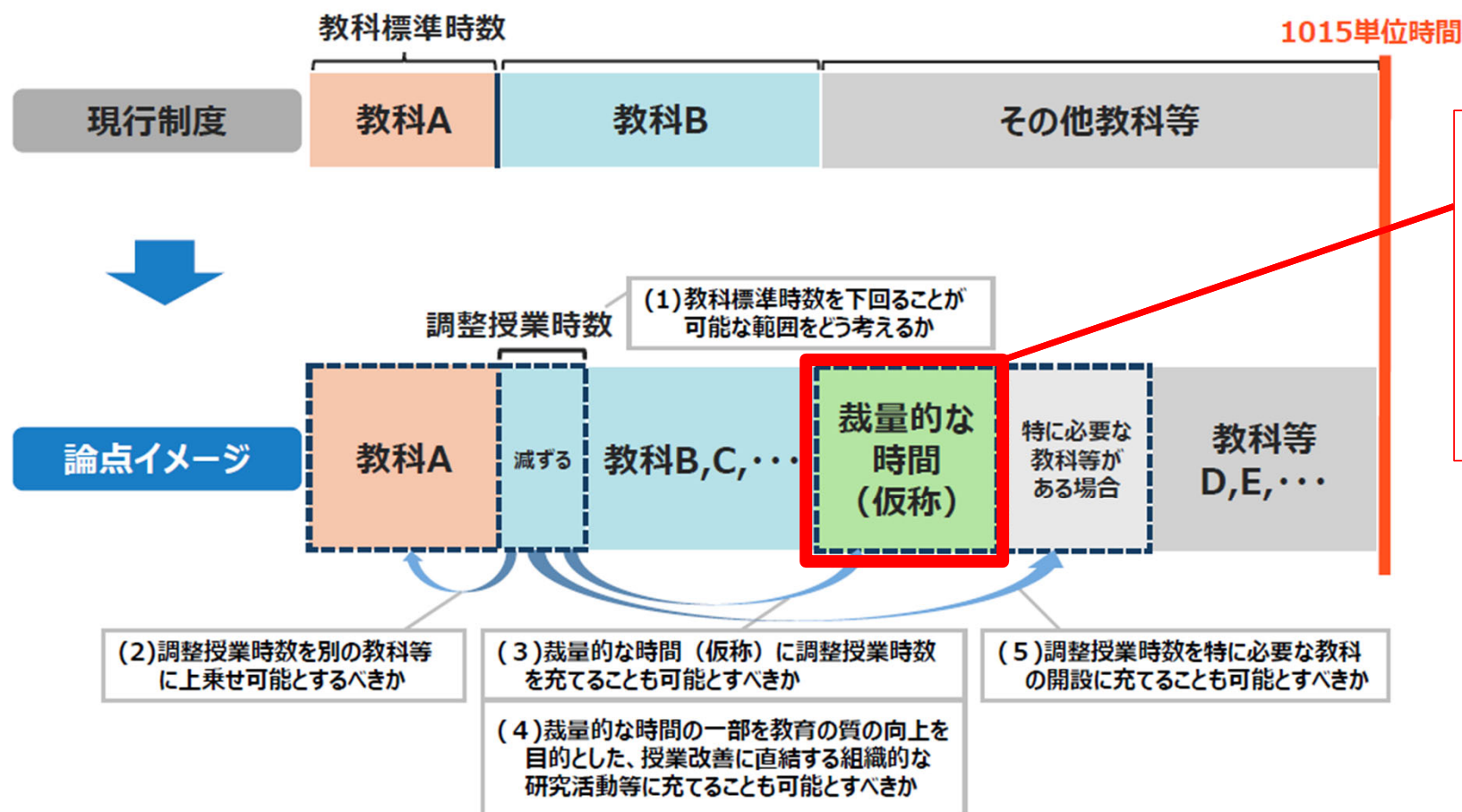
本日の内容

- ① 浜松小中学校の「自己の在り方生き方」の歩みと概念化
- ② 「自己の在り方」を「自己の生き方」に繋げるインサイドアウト思考
- ③ 2025年度の研究を見るポイント
- ④ 次期学習指導要領に向けた関連施策



柔軟な 教育課程（余白・裁量的な時間）

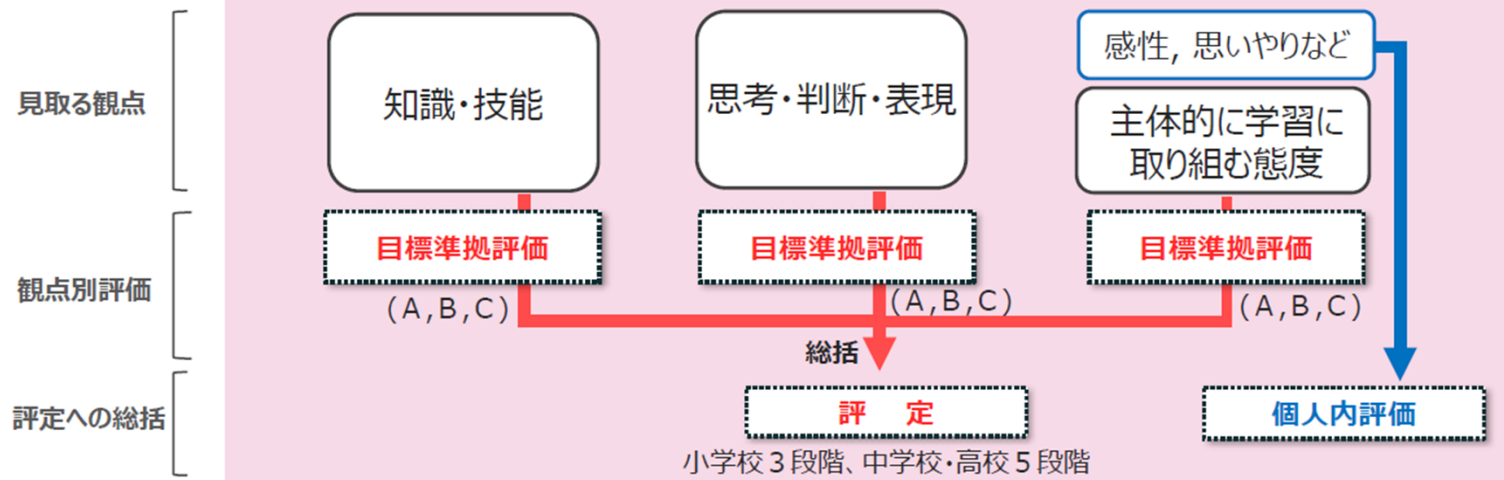
多様な個性や特性、背景を有する子供たちを包摂する柔軟な教育課程編成を促進するため、児童生徒や地域の実態を踏まえて、必要に応じて以下のような取組の一部又は全部の実施を可能とするか否か。



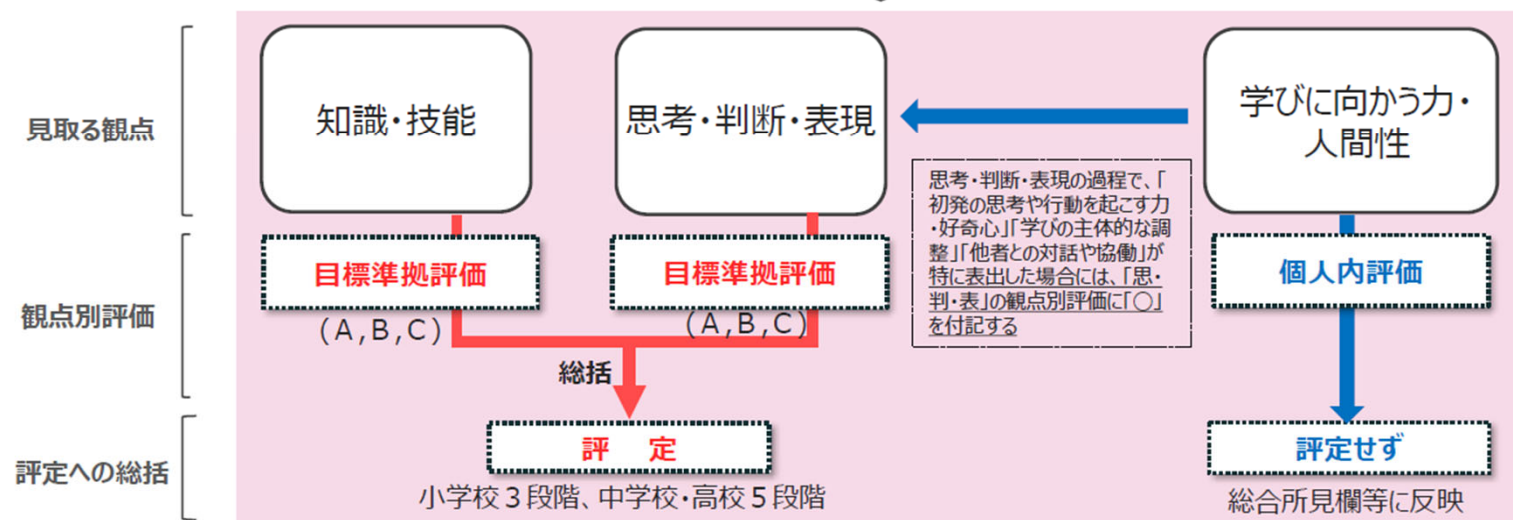
- ・子どもにとっての豊かな学びの時間
- ・教師にとっての教材研究、研修等の時間

新たな 観点別評価 の方向性

旧



新



学びに向かう力、人間性（主体性・対話等を構造的に改善）

【現行の整理】

小学校学習指導要領総則解説（抜粋）

児童が「どのように社会や世界と関わり、よりよい人生を送るか」に関わる「学びに向かう力、人間性等」は、他の二つの柱をどのような方向性で働かせていくかを決定付ける重要な要素である。

（中略）

児童一人一人がよりよい社会や幸福な人生を切り拓いていくためには、主体的に学習に取り組む態度も含めた学びに向かう力や、自己の感情や行動を統制する力、よりよい生活や人間関係を自主的に形成する態度等が必要となる。これらは、自分の思考や行動を主体的に学習に取り組む態度も含めた学び客観的に把握し認識する、いわゆる「メタ認知」に関わる力を含むものである。こうした力は、社会や生活の中で児童が様々な困難に直面する可能性を低くしたり、直面した困難への対処方法を見いだしたりできるようにすることにつながる重要な力である。

また、多様性を尊重する態度や互いのよさを生かして協働する力、持続可能な社会づくりに向けた態度、リーダーシップやチームワーク、感性、優しさや思いやりなどの人間性等に関するものも幅広く含まれる。

【今後の整理イメージ（素案）】

変化が激しい不確実な社会の中で、学びを通じて自分の人生を舵取りし、社会の中で多様な他者とともに生きる力を育む



文科省の主体性施策30年

- 平成元年学習指導要領改訂（1989年）

新しい学力観、**関心・意欲・態度**

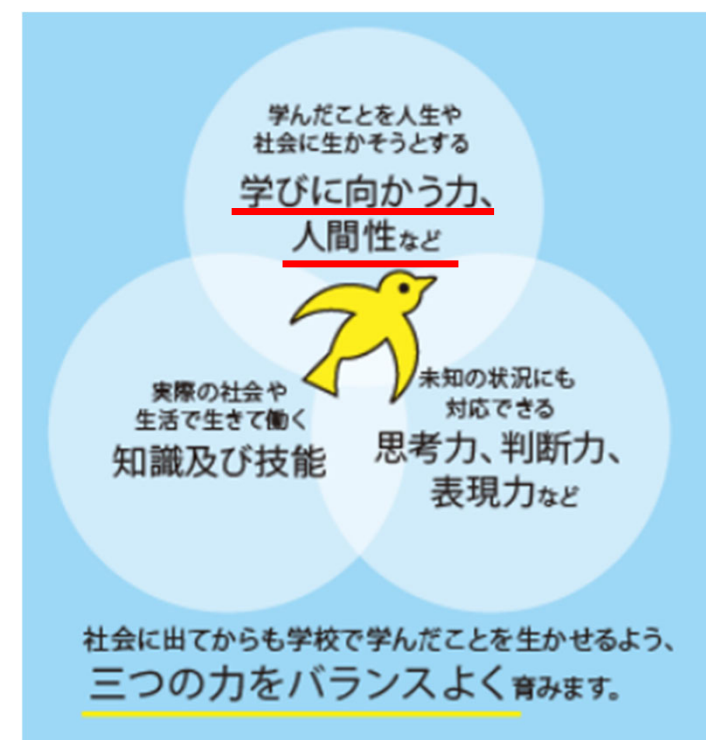
- 学校教育法改正（2007年）

第30条2項

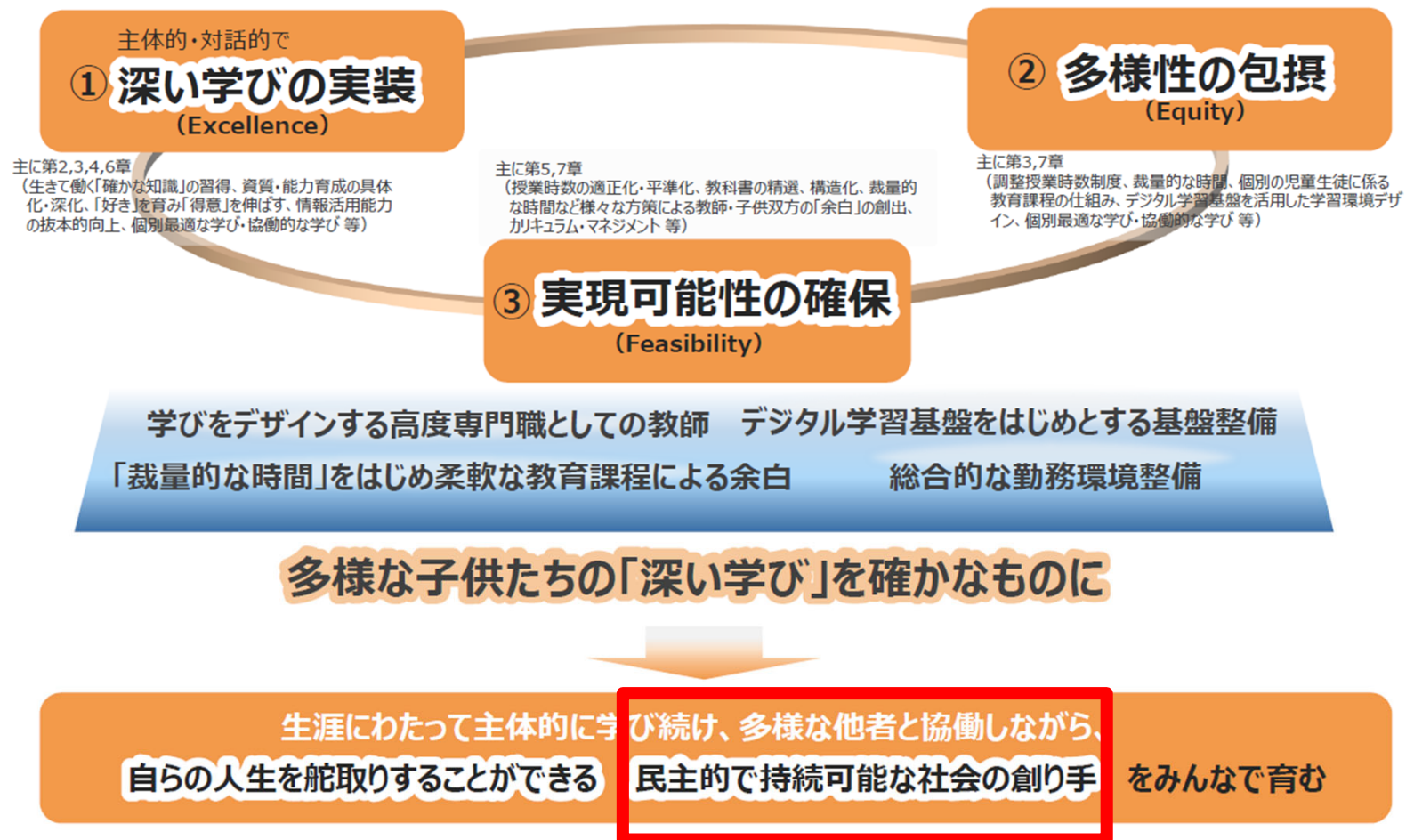
- (1) 基礎的な知識・技能
- (2) 思考力・判断力・表現力等
- (3) **主体的に学習に取り組む態度**

- 平成29-30年学習指導要領改訂

資質・能力の三つの柱、**学びに向かう力・人間性等**
＞**主体的に学習に取り組む態度**



民主的な社会の創り手



ほか「デジタル技術の民主化」

1 点コメント

- ・研究の蓄積がある分、同じ活動を異なる概念で重複して説きすぎており、外部者にはわかりにくい。

ex) 他者、対話、共生・協働

ひと・もの・こと → 「自己の在り方生き方」でいいのではないのか？

自己・他者・世界 → 「自己の在り方生き方」「見方・考え方」
でいいのではないのか？

- ・文科省の学習指導要領、施策文書等は全国の教育関係者の共通の教科書である。独自の用語を用いすぎており、対応がわかりにくい。

ex) 「主体的・対話的で深い学び」はまったく用いられない。

「個に応じた指導」（個別最適な学び）はない？

「情報活用能力」（デジタル学習基盤）はどこにビルトインされている？

本日の内容

- ① 浜松小中学校の「自己の在り方生き方」の歩みと概念化
- ② 「自己の在り方」を「自己の生き方」に繋げるインサイドアウト思考
- ③ 2025年度の研究を見るポイント
- ④ 次期学習指導要領に向けた関連施策

ご清聴有り難うございました



プロフィール

学校法人桐蔭学園 理事長
桐蔭横浜大学 教授

1970年生まれ。大阪府立茨木高校卒業。神戸大学教育学部卒業、1996年京都大学助手、2000年講師、2003年京都大学准教授、2014年教授を経て、2019年学校法人桐蔭学園理事長。桐蔭横浜大学学長（2020-2021）。京都大学博士（教育学）

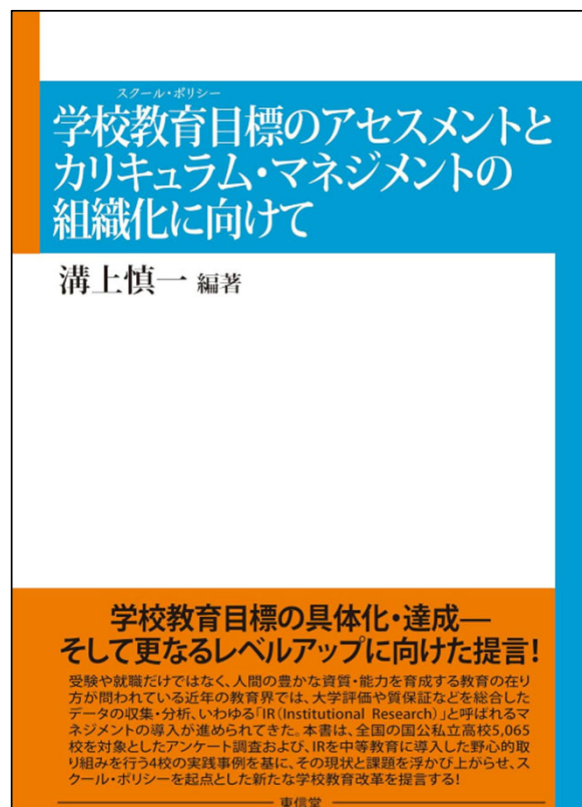
河合塾教育研究開発本部研究顧問、東京大学大学院教育学研究科客員教授、電通育英会大学生調査アドバイザー、文部科学省初等中等教育分科会教育課程部会臨時委員、日本学術会議連携会員、大学・高校の各種委員。日本青年心理学会学会賞受賞（2013年）、日本教育情報学会論文賞受賞（2023年）

専門は、青年・発達心理学・教育実践研究（自己・アイデンティティ形成、学びと成長、アクティブラーニング、学校から仕事・社会へのトランジション、人生100年時代のキャリア形成など）。著書に『アクティブラーニングと教授学習パラダイムの転換』（2014東信堂、単著）、『学習とパーソナリティ「あの子はおとなしいけど成績はいいんですよ！」をどう見るかー』（2018東信堂、単著）、『社会に生きる個性ー自己と他者・拡張的パーソナリティ・エージェンシーー』（2020東信堂、単著）、『高校生の学びと成長に向けた「大学選び」ー偏差値もうまく利用するー』（2021東信堂、単著）、『インサイドアウト思考ー創造的思考から個性的な学習・ライフの構築へー』（2023東信堂、単著）、『高校・大学・社会 学びと成長のリアルー「学校と社会をつなぐ調査」10年の軌跡ー』（2023学事出版、編著）、『幸福と訳すな！ウェルビーイング論ー自身のライフ構築を目指してー』（2023東信堂、単著）など多数。

<https://smizok.com/>



(新著の紹介)



溝上慎一（編）（2024）. 学校教育目標（スクール・ポリシー）のアセスメントとカリキュラム・マネジメントの組織化に向けてー 東信堂（2025年1月20日）

第1章 理論

第2章 学校教育目標のアセスメントとカリキュラム・マネジメントの組織化に向けた実践的提案

第3章 アンケート調査から見る全国高校のスクール・ポリシー体制、データ・マネジメントの実態

第4章 事例

事例1 桐蔭学園高等学校・中等教育学校（川妻篤史）

事例2 大手前高松中学・高等学校（合田意）

事例3 富士市立高等学校（滝陽介・斉藤雅）

事例4 品川女子学院中等部・高等部（山本はるか・山崎碧）